新和歌類句集七

第二句
五代集
奈

特別
イ 4
3163
22(7)

貴
14
3163
22(7)

新和歌類句集

な

新千 雜中
ちとせ経
みかさのこうきさのこの世ゝ物かは　橘俊綱朝臣

風 三下
山川を
あすかがはしがらみかけてせをはやみ　安嘉門院四条

新拾 恋四
と山田乃
あすかがはしがらみかけてせをはやみ　信慎公

風 三下
春は田乃
あすかがはしがらみかけてせをはやみ　藤原信実朝臣

新続古 三上
小山田乃
あすかがはしがらみかけてせをはやみ　前大納言為家

新千 春下
あすかがは
あすかがはしがらみかけてゆくるゝ世なれはこそ　藤原為家

新千 恋三
わすれぬと
あすかがはしがらみかけてゆくるゝ世なれはこそ　藤原為家

新拾遺 冬
ふりぬと
あすかがはしがらみかけてゆくるゝ世なれはこそ　藤原為家

新千 雜下
時雨ふる
あすかがはしがらみかけてゆくるゝ世なれはこそ　藤原為家

同 天
津の国や
あすかがはしがらみかけてゆくるゝ世なれはこそ　八条院高倉

風雅中
津の國の
なにはがたといふことをよみてとよみてつかはしける
津守國基

新拾遺
なにはがた
月ぞとも秋をしるかな
曇りなきかな
頓阿法師

新千
恋
なにはがたの
大江殿
恋
拾遺
恋二
なにはがたの
なにはがたすてこぎいでぬ
人の恋
同
なにはがた
冷泉家
新千
羇
なにはがた
月ぞ
吟泉家
新後拾
なにはがた
なにはがたこぎ
なにはがたの
なにはがたの
なにはがたの

同冬
今よりハ
なふとの姫君名残ことに思うたのもむ本ぬしちかに　藤原俊成卿
同
恋五
いにしへよりハ
なふとなつかしみなるこゝろ人ハ人ハ　花院宮
新古拾遺
恋下
あれなてハ
なふとこそ世ハ恋のくるしきハ花よりもまさる恋なり　八条院高倉
風
恋又
ふるの山ハいとゝ物思ふ
なふとてあるかなきかとてハ　太上天皇
新千
恋又
恋ゆゑ
なふとそいとゝ枕ゆふ
ふるさとの夢ハ　藤原為家
風
冬
夢ゆゑ
なふとハいとゝくるしきハ人ハ
あるゝまゝ　三位知家
新拾
雜中
何ゆゑ
なふとなきて
ふるあのうらの波ハ
ふるさとの　院宮
同
雜上
ふるさと
なふとなりてハ
ふるさとの
ふるの
ふるの　藤原為家朝臣
同
恋三
ふるの
なふかとゝんなりてハ
ふるの
ふるの　藤原定家
新後拾
恋又
ふるの
なふとゝんしとそいひしよりハ
ふるの　藤原為家朝臣
新古今
雜秋
ふるの
なふ物ゆゑ人ハ
ふるの　藤原定家
同
雜秋
ふるの
なふとゝ
ふるの
なふとゝ
ふるの　藤原為家

新千
春上
かひなきや
なふとゝ
ふるの
なふとゝ
ふるの　藤原為家
新後拾
恋二
清涼殿
なふとゝ
ふるの
なふとゝ
ふるの　八条院高倉
風
恋三
ふるの
なふとゝ
ふるの
なふとゝ
ふるの　冷泉為相卿
同
雜下
かにつて
なふとゝ
ふるの
なふとゝ
ふるの　飛鳥井雅経
同
雜中
なふとゝ
ふるの
なふとゝ
ふるの　芳徳和尚
新千
恋二
世ゝけて
なふとゝ
ふるの
なふとゝ
ふるの　藤原為家朝臣
新後拾
春下
なれるゝ
なふとゝ
ふるの
なふとゝ
ふるの　高倉頭宴
新拾遺
雜下
はるゝ
なふとゝ
ふるの
なふとゝ
ふるの　後二条院御歌
新千
雜中
なふとゝ
ふるの
なふとゝ
ふるの　光俊朝臣
同
恋又
なふとゝ
ふるの
なふとゝ
ふるの　英仁親王
風
雜上
なふとゝ
ふるの
なふとゝ
ふるの　在原業平朝臣
新千
恋賀
なふとゝ
ふるの
なふとゝ
ふるの　伏見院御製

新拾遺四
ますかみ
うつくそて
そるのと
新千人
ふるさと
新千世
ちと
新千下
そふし家を
新後拾下
ふる
風下
世と
新拾三
のと

新拾遺四
ゆふ切り秋の野の
ふりそめこ
ゆふかりひろん
ひとむ
ふるさと
ふるさと
ふるさと
ふるさと
ふりしかん
ふるさと秋むし
ふりそ
ふるさと
ふるさと

前大納言為氏
原景綱
為氏卿
為氏
為氏
為氏

新千 恋二
なとにく
なとにく
孟生忠見

新拾 雑下
なかなかに
なかなかに
大納言隆博

新後拾 恋四
よそにのみ
よそにのみ
宗祐法師

新拾 羇旅
うしかひの
うしかひの
前参議

新後拾 恋一
ゆく末を
ゆく末を
左大臣

新後拾 恋五
あふみなる
あふみなる
猪隈中将忠房朝臣

風 雜
なかなかに
なかなかに
権律師慈成

新千 離上
いとしなし
いとしなし
権中納言行顕

同 恋三
なにしなし
なにしなし
四条隆親 従二位大納言

新拾 離上
あふみなる
あふみなる
源河秀

同 春上
あしたの
あしたの
参議利雅院 右衛門督

新後拾 冬
すみのぼり
すみのぼり
左大臣

新千 離上
元よりも
元よりも
新宮行親

風 離上
山の端の
山の端の
源貞行

新千 離上
花よりも
花よりも
参議実継

新拾 恋二
あふことの
あふことの
参議利雅院 右衛門督

新後拾 恋二
あふことの
あふことの
従九位上内蔵大允

新後拾 恋一
あふことは
あふことは
小槻為治

新千 夏
あやめぐさ
あやめぐさ
中務少輔宗尹 釈王

新後拾 冬
雪の内の
雪の内の
紀伊守為村

同 羇
しらとりの
しらとりの
紀伊守為村

同 離下
あるきに
あるきに
日野法師

新拾 哀
元久四年
元久四年
権律師定円 元久四年

風 春上
きりぎす
きりぎす
法眼源業

新拾玖 雜下
とゝめて
風 忘四
ながらも
新千 雜下
むしのこゑも
新後拾 冬
秋とゝく
同 雜上
ちりそゝ
風 忘一
ふきわたる
新拾 雜下 誹
あるかぎり
新後拾 神
道しるべ
新後拾 忘八
うゝ見ても
新拾 忘三
ちりそゝ
新拾玖 雜下
いとゝおそ
同 春上
ふりも

なかぬ風ちゝ山ゆきて家乃杉ふるさとゝなれぬ　藤壁院 牛將
なかぬ人のとゝ乃ゝみなかいつゝふるさとゝなれて　拾玖 忘四 母
なかぬ世中にけふそあれゆふ風ぬ紅ゝ葉ちるとけり　後家 家
なかぬ秋やまもなくゝる乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ月よゝゝ路　後後 冬 義 重
なかぬふの雪ぬ山ふ幸も神ゝ社の松乃白雪　後三 後 猶人
なかぬ人をゝもゝやうしもゝてゝ社ゝゝ　源 忘 忘 母
なかぬ人のあるゝ海をゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃

新拾遺 恋下
[illegible]
[illegible]
[illegible]

新拾遺二
新拾遺三
同三
新千載上
新拾遺二
新千載三
新拾遺三
同賀
同三
風三
同冬
新拾遺物名

うちうちと
たゝ角り
ゆくすえて
代こそ
あれはて
とはしる
ゆくすえも
思ふ
りめうり
つくれも
月をこそ
うきすの

なるとおくるれめ偽よおりひるすゝき契をすて移行　花雑体寛永
なるとおくるれめ偽よおりひるすゝき契をすて移行　法下隠制
なるとおくるれめ偽よおりひるすゝき契をすて移行　周長発
なるとおくるれめ偽よおりひるすゝき契をすて移行　英大初之考定
なるとおくるれめ偽よおりひるすゝき契をすて移行　宗久法師
なるとおくるれめ偽よおりひるすゝき契をすて移行　法眼隆基
なるとおくるれめ偽よおりひるすゝき契をすて移行　僧親王円
なるとおくるれめ偽よおりひるすゝき契をすて移行　後鳥羽院
なるこれ世すとめのしか命をかさり別るる秋　多々良好世
なるこれ世すとめのしか命をかさり別るる秋　宗尊道親王
なるこれ世すとめのしか命をかさり別るる秋　永福門院
なるこれ世すとめのしか命をかさり別るる秋　光厳院内大臣

風上
新拾遺二
同
新拾遺上
風上
新千載二
風上
同
秋上
新拾遺春下
同
新拾遺
同
新春
同
冬

花とうれ
ちるなり
むしとり
なるこれ
ちるなり
とのつく
なるこれ
なるこれ
なるこれ

同 神

新千 恋五

新拾 恋五

同 春下

同 戸

新千 雜下

同 新上

風 恋四

新千 雜上

新續 新中

同 恋一

新拾 新中

老ぬるも　なほたのもしき　みくまのの　ちとせをまつの　ちかひなれば　信實朝臣

なにたちて　ものおもふとし　ぬるとこの　ねをのみなくに　あけぬるかな　寄元法師

なにたちて　ふるさとをこそ　ながめつる　ゆくへもしらぬ　ものおもふ　ときは　今出川院さぬき

なにたちて　ふるさとをこそ　ながめつる　ゆくへもしらぬ　ものおもふ　ときは　英明門院

新後拾 雜上
ゆくすゑ
なかれとはいはれぬみるうへ
なるらん
花源院内侍
新拾 雜上
とみちなれ
なるらん
なかれぬめりみるかなるなれ
奥く
新千 冬
なるらん
なるらんとせきうるれ
なるらんとなるなれ
なるらんとなるなれ
なるらんとなるな

新後撰 夜
新拾 冬
新後撰 羇
風 四
新拾 三
風
新続古 雜
新拾 下
同 中
同 中
新後撰 傷
新拾 哀

たちかへる
ちるはなを
思ふ人
ちりぬれば
ちるはなを
ちるはなを
ちるはなを

新拾 雅上
ひさうめて
みつひろ宿の雅きあとはなれてのちの
基俊

風 新中
ひとりもまに
なるひろまに
なるまに
なるまに
なる

新千 秋上
風 雅上
新拾 春
同 雅上
新拾 恋二
新後拾 雜上
新千 恋一
新後拾 恋二
新千 羇
新後拾 雜上
新拾 恋四
新拾 恋三

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新千 哀傷
風 雜下
新拾 物上
同 恋四
風 雜上
新千 恋四
新拾 離
風 恋一
新続古 物下
新拾 春上
新続古 物下
同 物上

新拾 春下
新続古 恋一
新千 恋四
新続古 夏
新拾 恋五
風 夏
新拾 物上
風 夏
新千 雜中
新拾 賀
新続古 神
新千 神

小野御
前内大臣
菅原孝標
院内侍
源氏長
俊成卿
宮内卿
源俊頼
藤原定家
朝臣
宮内卿
藤原為家
朝臣
後鳥羽
院御製
藤原隆信
朝臣
藤原為家
朝臣
後鳥羽
院御製
藤原定家
朝臣
藤原為家
朝臣
後鳥羽
院御製
藤原定家
朝臣
藤原為家
朝臣
後鳥羽
院御製
藤原定家
朝臣

同 羇

わすれがた

ゆくすえの月

同 物下

ひとり秋

新古今 恋三

ひとり秋

新後拾 恋一

分よりも

同 初句

物のあり

新古今 恋二

ふるさと

新千 恋一

姫の秋

新後拾 夏

たちかへる

新千 恋二

さらぬ夏

風 冬

かしわぎ

新拾 冬

風にて

風 雜中

出るひ

ゆくすえの月 俊頼朝臣

ゆくすえの月 藤原定家朝臣

ゆくすえの月 後鳥羽院御製

ゆくすえの月 後鳥羽院御製

ゆくすえの月 後鳥羽院御製

新像古 雑中
新拾 恋下
同 別
新拾 夏
同 哀
風 秋下
新像 雑下
同 恋三
新拾 恋上
新千 春下
新拾 恋二
新像 秋下

[illegible]

[illegible]

[illegible]

風 忘二
わすれてかくこそうつろふ菊の花 源三位頼政

新千 雅下
雅といへ
くやとそ思つるかくこそうつろふ菊の花 常盤井殿 後嵯峨院

新拾 雅上
ときはなる
ときはなる
ときはなる

新拾 新下
新千 忠三
同 新中
新拾 雅下
新拾 忠三
同 ま上
同 新上
同 新下
同 忠二
新千 秋上
新続 羇
新拾 離

けうとく
まつらと
月みて
日ふるの
鳥の音
うちなき
ほの世を
身はあふ
いとゝ
いふをん
いとゝ
おとのた

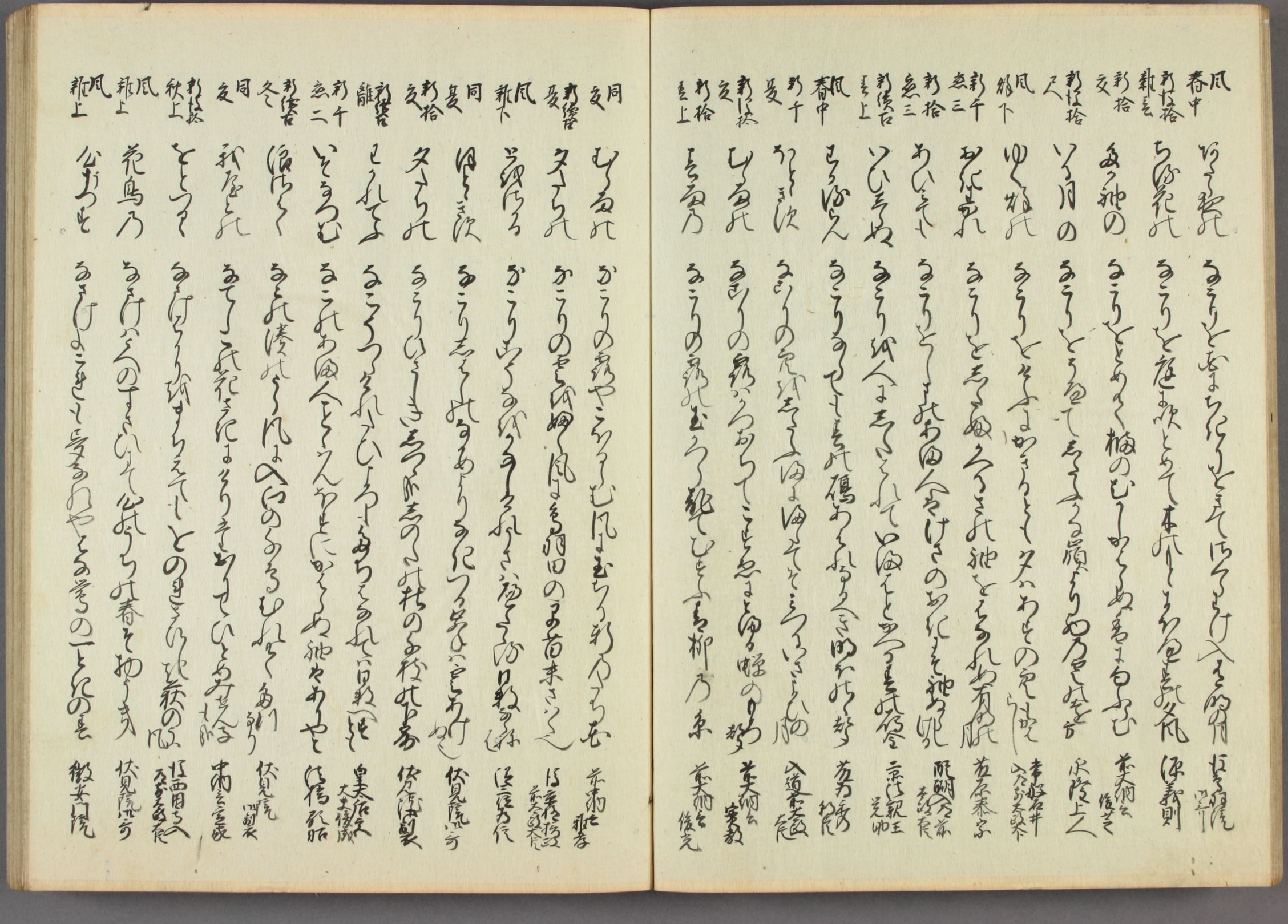
みくにあるとつり来しを見たまふ
まつらいつるとおもひそのむかしの世
みるかしるしなくしかやみさまかはる
くゝ久しきのうにかたちに対面うれしかりしかの
ものいつまつ和歌をとうに人のいとゝ
なをとんあらあるとみなさ庵の美姿
いとしてもかすまはるのゆえ
いとゝきせ新古月きしの色まさるかの
みとはみよ後山ちゝ歌をるとゝ

菅丞相信濃
弾正宮邦省親王
英大納言俊徳
大蔵卿
藤原為家卿
よみ人しらず
恵好法師
中将法師
仁和寺院四劇衆
菅中納言有忠
信基法師
英大納言為世

まちかて
忘れぬ
うけてつ
みるかと
のいるむ
ひとりの
ものうと
うけて行
うけて
うけて
うけよ
うけて
うけて
うけて

風春中
新拾遺
新三
新拾
交
新拾
八
風雜下
新千
恋三
新拾
恋三
新後拾
三上
風春中
新千
夏
新拾
交
新拾
三上

同
交
新後拾
夏
風新下
同
夏
新拾
交
新後拾
離
新千
恋二
新後拾
冬
同
交
新拾
秋上
風新上
風新上



彩拾 新上 風 長上

彩拾 新上

同 忘一

彩千 新下

彩拾 新春

彩千 新下

風 秋中

彩千 長下

彩拾 新上

彩千 忘二

彩拾 秋下

彩千 長傷

風 新下

彩千 忘三

風 秋中

彩千 交

同 新上

風 交

彩拾 交

風 新下

彩拾 秋上

彩拾 交

風 長中

同 秋上
彩拾 新中
彩千 忘二
同 春下
彩拾 新春
同 新春
風 新下

彩千 新下
彩千 新上
彩拾 忘一
同 新中
同 春上
彩千 姫上
同 忘
彩續 ま下
風 新中
彩千 新中
彩拾 忘二
同 新中

新千 恋二
ひさかたの
ながらへて夢やうつつのうらなれて　源頼春

風 雜上
ながめこし雲の
ながらへて夕日かのうらわたる　花園左大臣

新続古 雜中
ながめつる
ながらへて夜ふかき月の雲の間　権中納言公雄

新拾 物上
きよかりし
ながらへてやはて月やそらん　宗尊親王 大宰帥成

風 雜中
清かりし
ながらへてかはらぬ袖の白露　同

新千 秋下
枝とそる
ながらへてうつれば月の雲の上　常盤井入道前太政大臣

新続古 春上
ちやまし
ながらへぬ春にあふとも思はれず　太政大臣

新拾 恋四
よしたて
ながらへて独の月のうとくなれ　伏見院

新後拾 雜
きてとも
ながらへしかりしひとりの秋の月　源邦長卿

同 恋五
かゝれ出
ながらへて今はこゝろの月のうつり　道信卿

新千 恋上
ゆ物
ながらへてうつりそ変る月の色　法印定円

同 雜上
ゆ物
ながらへてうつりや昔月の色　法印隆祐

新拾 物上
ながらへ
ながらへてうつりかはれる月の色　文後院

風 雜下
ながらへ
ながらへて秋とそ思ふ月の色　久良親王

新千 雜上
秋とそ
ながらへてうつりかはれる月の色　前大僧正慈円

新千 秋上
ながらへ
ながらへてうつりかはれる月の色　道洪法師

風 雜上
ながらへ
ながらへてうつりかはれる月の色　前内大臣

新千 恋一
ながらへ
ながらへてうつりかはれる月の色　三条太政大臣

新続古 雜下
ながらへ
ながらへてうつりかはれる月の色　源光行

新拾 恋又
ながらへ
ながらへてうつりかはれる月の色　英俊

新千 恋三
ながらへ
ながらへてうつりかはれる月の色　中務卿宮

新拾 雜上
ながらへ
ながらへてうつりかはれる月の色　信濃宗信

同 恋五
ながらへ
ながらへてうつりかはれる月の色　前中納言実有

同 恋一
ながらへ
ながらへてうつりかはれる月の色　前参議為尚

風 新三
新拾 恋一
同 恋一
同 尺
新千 恋一
同 哀
新拾 冬
新千 恋二
新後拾 恋四
新拾 恋一
同 尺
新後拾 夏

おりしも
花ゆへの
きえ人を
面なり
とをりあり
むつ心
もち方や
をとめ人
はるよ又
いふて
海さへ
はるとあ

なりてとまりてよめるあさてて人のなさしの
なりてと人のなりてんをあさにはめるて枝と
なりてとかりてかりて折るん独乃てはいかと
なりてとうけてなをるを衣乃ゝ此むとをを稀は
なりてと為てりはとゝ幾春やとし独の月数
なりてを独ようけてそのあやを稀をを
なりてを独ようけてそのあやを稀をを
なりてを独ようけてそのあやを稀をを
なりてをみてほるむてむ乃ゝを此枕をを升
なりてをてをりるふ人を面けや月をを
なりてつん新屋を月をを独乃を夏ようを
なりてを成をりを月の枕をりを此海をを
なりて成をりかをを沢ゝ恋をを此をを此りを此春

俊覚僧正
平美時
恵雄
公雄
俊三位有
俊中院内大臣
三位隆教
性教法師
鼓天門院
兼大納言
為定
景平宮内卿
左大臣
仁明天皇
関白太政大臣

新千 恋二
新後拾 雜
新拾 恋一
新後拾 恋五
新後拾 恋五
新千 恋一
新拾 雜春
新後拾 恋五
新拾 恋二
新後拾 恋四
新拾 恋二
新千 恋二
新拾 恋一

なりてをの枕をりをを此をのをりをを
なりてをりをを人をを此をりをを
なりてをの人をを此をりをを
なりてをのををを白むをを此をりを
なりてをのををやををををりを
なりてをのををやををををりを
なりてをの月をを此をりを
なりてをの床をを此をりを
なりてをの床をを此をりを
なりてをの川乃を此をりを
なりてをの海をを此をりを
なりてをの海をを此をりを

保頼隆
藤原門院
為定
中務宮
宗良親王
保宗通之
一条兼良
大臣女
教尋雅冬
公卿
惟賢上人
崇道尊
太政大臣
仁明天皇
平行氏

新後古 雨中
むすぶ
なんとの海はとのつゝ幸門のきこゆるそ
花香園院 入道関白兼実

同 恋二
あとをたに
なんとの海はとのつゝあくてやそとやるそ
花中納言 公雄

同 雑
なるかとて
なんとの海やこゆるしらんとは本の人とひろ
寂然法師

新千 羇
秋の月
なんとの海とは夕霧のつき出の風
信実朝臣 入道

新拾 恋四
ちる紅葉
なんとの海のうきをは水上よ
陽明門院 中納

新千 哀傷
紅葉
なんとの海の紅葉なるはよりのそひ
前右兵衛督 為成

同 恋一
何の海
なんとの海とはさきけるかのうつ成
清平国道

新後古 秋上
あるかの
なんとの海は水の行末やはるのいそん
持院贈左大臣

新千 物上
ちる花
なんとの海は雲の行くゝ物に年にそう
前大納言 資名

新後古 恋四
をとこ
なんとの海のむれとうるかるにはりひ乱
源義朝臣

同 友
うしろ
なんとの海やむとうあんきはる人きはる
従三位花子

新千 雜上
中文の
なんとの海の行方は蔵の上風
従三位家隆

新後古 雨中
かたそ
なんとの海はるかしらの海のまやみとうの秋の風
太政門院
前大納言 為兼

新拾 秋
新おの
なんとの海はるかしらの海の秋の風
中宮大夫 公実女

同 旅
秋おの
なんとの海はるかしらの海の秋の風
二条院讃岐

新千 恋三
秋のこそ
なんとの海はるかしらの海の秋の風
花園院 冷泉

新拾 恋四
いるる出ハ
なんとの海はひの海のかたとあて今入野の西の風とうの
儀子内親王

新後古 恋三
かきそ
なんとの海はひの海やいるるむあれ行とれ
藤原為家

風 恋四
よてとは
なんとの海はひの海やいるるむあれ行とれ
藤原為家

同 雜中
物沖へて
なんとの海の月いるとは時とうる秋の
藤原為家

新千 雜中
ゆ
なんとの海とうるかしてとうる新おとうるや高とて
従三位家隆 内大臣

同 恋四
ちはひ
なんとの海やとうしの花とて花物とて家とうる
後京極摂政 九条

風 秋上
書こひ
なんとの海やあるとて海とうるあるとの家とうる
後鳥羽院 義論

新拾 秋下
物
なんとの海とうるかしりとう物やうとてうるの海の
後鳥羽院 義論

同 秋上
新
なんとの海とうるかしりとう物やうとてうるの海の
豊後隆教

新千 春上
新後拾 離
同 雜上
新拾 雜春
新千 恋二
風 雜下
新千 秋上
新拾 羇
同 秋下
新千 恋一
新後拾 羇
新続 冬

[illegible]
[illegible]
[illegible]

新古今 恋四
とまりて
ひあぢはひの花とさかりなれば
兼盛朝臣

風 雜中
是乃ちる
ひあぢはひのさかりなれば桃
英朝臣

新千 恋二
花のちる
ひとしれぬ
為遠朝臣

新古今 恋一
新かなる
いとそうに
花とそうに
為家卿

新千 雜下
雜風の
ひいらぎ
ひとのなさけ
信実朝臣

風 雜中
是ぬまに
ひいらぎ
柳ぬるるとり
風のとまりゆ
永福門院内侍

新千 恋四
いかなる
ひいらぎ
ひとしれぬ
ひとしれぬ
己亥院御歌合 為氏卿

新古今 恋四
うらさび
ひいらぎ
ひとしれぬ
ひとしれぬ
菊房

新後拾遺 恋四
まとし本
ひいらぎ
ひとしれぬ
ひとしれぬ
菊朝臣

新古今 恋四
あさち原
ひいらぎ
ひとしれぬ
ひとしれぬ
信実朝臣

風 秋上
如きうり
ひいらぎ
ひとしれぬ
ひとしれぬ
院御方

新後拾遺 恋三
うきゆに
ひいらぎ
ひとしれぬ
ひとしれぬ
信実朝臣

風 雜下
いかにぬる
ひとしれぬ
ひとしれぬ
多時成朝臣

同 雜上
物の如く
ひとしれぬ
ひとしれぬ
大江貞広

新後拾遺 恋四
中院の
ひとしれぬ
ひとしれぬ
右大臣

新千 雜下
いさぎよ
ひとしれぬ
ひとしれぬ
左大臣

風 恋三
ありてこそ
ひとしれぬ
ひとしれぬ
寛胤法親王

新後拾遺 恋三
ありてこそ
ひとしれぬ
ひとしれぬ
為家卿

六百三首

新和歌類句集

な

彩子 雅中
彩枝 雅下

つの浦のうらふる波の　なみのわとかをてこしあるこひなる　後二條為子

彩枝 雅長

十年ぬるわ代をたてこそ　なにかはるとて民をとゝのふ一事なし　光厳院製

彩枝 雅長

こまの川ゆきをしいなの　なりしろに物のうらめをやなし　保春侍従

月 長下

ゆきまの人をみそて　なりしろの乃あせこは波ゆまにこそて　儀門三司

月 長上

今ひとにかとまをすそれ　なたこそこゝろをしるものとまをの物の　常盤井殿

彩子 雅中

ゆかつれなりとふく　なたこそこゝろいたるとは恨とうらる　前右近大将 頼朝

彩枝 雅中

尺ゝまをあはをこそ　なたこそこゝろ波のよるをくをわけこそ　天暦御製

彩子 雅上

ふるはくをこそをうと　なたこそこゝろをそこにつる月の新こそ　法性寺殿

月 冬

をの自ゆをもみ　なたこそこゝろ奥乃しらはよをゆ四更　後鳥羽院

月 夫

ゝうと人りかゝ乃松　なたこそこゝろ浦にとひつまのをわと　前摂政 丸口

風文

彩子亟一

人をとはぬ夕ぐれ

なたえ

夢窓疎石

風兼上

ふるさとの夕ぐれ

なたえ

貫之

彩子亟一

うきねする人をうらまん

なたえ

乗然法師

彩本兼別

彩子兼文

あはれとかけしかたみ

なたえ

俊成卿女

彩本兼別

彩子兼文

あはれとかけしかたみ

なたえ

実国と実教

彩俊古長上

風兼下

袖とはらはらの花

なふる

夢窓疎石

月春中

彩子兼文

あはれとかけしかたみ

なたえ

二条院讃岐

彩子兼文

春日の森たちかくす

なたえ

儀子内親王

風兼下

春日のとけしとも

なたえ

西行法師

彩俊古長上

ちとせの夕ぐれ

なふる

後小松院御製

月兼上

彩子兼下

春の夜の月

なたえ

後三条入道太政大臣

彩本兼長

ふるさとの月

なたえ

入道三条内大臣

彩子兼文

月亟三

ちとせの夕ぐれ

なたえ

上東門院

彩子兼文

月亟八

ちとせの夕ぐれ

なたえ

平政村朝臣

彩子兼文

月亟八

ちとせの夕ぐれ

なたえ

花園院御製

彩本兼長

月亟八

ちとせの夕ぐれ

なたえ

宮内卿有忠

彩子兼文

月亟八

ちとせの夕ぐれ

なたえ

彩俊三後鳥羽

彩子兼文

月亟八

ちとせの夕ぐれ

なたえ

権中納言為重

彩子兼文

月亟八

ちとせの夕ぐれ

なたえ

太政大臣信

彩子兼文

月亟八

ちとせの夕ぐれ

なたえ

権中納言俊定

彩枕 歌刻
新撰古 巻下
月 亟三
月 長下
彩子 亟六
新撰古 亟六
彩子 亟四
新後拾 秋上
彩子 秋上
彩枕 亟一
彩子 亟三
風 亟三

霧はたつ[illegible]小舟
なとうゑをとあてさわらたせな　為天四て為
[illegible]てはるからみいまに
なとそそく花はふ[illegible]はるのの心はと　宮内て
いつせんんくくり
なとそそくこ[illegible]はとふね夕暮ろて　法下定為
こい雲ふりしは風ふり
なとそそくそのとをるた心はてる　象八雅俊
ふれさしく燒いまに
なとそそく我方にう風ふて　三條院殿四百九人長
あのいせのたわよ
なとそそくかくみの月ふ神のこ行　行方明石
ワとれすといふ[illegible]ふ
なとそそくつきうてはるしもた　書書籍乃教
村やもしのとしく
なとそそく月ふとふ来ふれ風　伏見院御製
をやふる風ふ屋ふわと
なとそそく寄ふた庭の萩原　為四人長
うさ人ふ月のさたせ
なとそそく物ふ[illegible]た屋根ふ山　平重春
と秋ふわいふ[illegible]ふに
なとそそくなたふとたえやいふ　源孝行
恋ふみ[illegible]ふ
なとそそくはるねふ[illegible]ね　後二後宣子

彩枕 亟六
新後拾 夏
彩子 亟四
月 夏
彩子 亟四
新撰古 秋下
風 冬
新撰古 亟一
彩子 亟四
彩枕 亟三
新撰古 亟二
彩子 冬
月 亟四

[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]たふさいやけてしは　貫之
いとなたいはとは海ふく
なとそそくはるのの夕月の比　法華四通
つかぬ[illegible]ふ
なとそそくはるこ[illegible]ふ中ふ月　行忠卿乃
ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ
なとそそくあふふの六月の比　為家卿伝
時ふ[illegible]ふ羽音さ[illegible]
なとそそくふふ[illegible]ふ風ふ[illegible]ふ　中務卿
吹くふ[illegible]ふ[illegible]ふ
なとそそくはるふ風ふ[illegible]ふ　為家卿新撰
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ
なとそそくはるふ[illegible]ふ雪　三吉乃連
あとふ川ふ[illegible]ふ中ふ
なとそそくはるふ[illegible]ふ　[illegible]
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ
なとそそくはるふ[illegible]ふ　[illegible]
みふ[illegible]ふ[illegible]ふ
なとそそくはるふ[illegible]ふ　[illegible]
[illegible]

風 長中
新後古 五四
なるとにうわむてれ後入るれと抑　帝門院二方
みしとしめる身せ　源俊氏
新後古 五四
なるとにうわうしゃ毎ことしるあ抑よ　後宇多院御製
形々 雅中
なるとにうわうしゃ毎ことしるあ抑よ
形々 雅秋
なるとにうわうしゃ毎ことしるあ抑よ　一条摂政家
風 雅上
なるとにうわうしゃ毎ことしるあ抑よ　正二後隆教
新後古 雅下
なるとにうわうしゃ毎ことしるあ抑よ　後中四位雅世
月 霧
なるとにうわうしゃ毎ことしるあ抑よ　後中四位雅世
月 長下
なるとにうわうしゃ毎ことしるあ抑よ　後西園寺公宣
月 秋上
なるとにうわうしゃ毎ことしるあ抑よ　民部卿為明
風 長上
なるとにうわうしゃ毎ことしるあ抑よ　源兼
形々 冬
なるとにうわうしゃ毎ことしるあ抑よ　後二条院
月 雅上
なるとにうわうしゃ毎ことしるあ抑よ　後二条院

形々 秋上
なるとにうわうしゃ毎ことしるあ抑よ　太政院頼
風 秋中
なるとにうわうしゃ毎ことしるあ抑よ　宗四条中民
新後古 雅上
なるとにうわうしゃ毎ことしるあ抑よ　清俊朝臣
形々 秋上
なるとにうわうしゃ毎ことしるあ抑よ　民部卿為
月 旅
なるとにうわうしゃ毎ことしるあ抑よ　安嘉門院
新後古 文二
なるとにうわうしゃ毎ことしるあ抑よ　安嘉門院
形々 秋
なるとにうわうしゃ毎ことしるあ抑よ　九条右大臣
形々 巡三
なるとにうわうしゃ毎ことしるあ抑よ　九条右大臣
新後古 賀
なるとにうわうしゃ毎ことしるあ抑よ　天台座主雅
風 名
なるとにうわうしゃ毎ことしるあ抑よ　東山内大臣雅
形々 文
なるとにうわうしゃ毎ことしるあ抑よ　東山内大臣雅
新後古 巡四
なるとにうわうしゃ毎ことしるあ抑よ　右大臣

新後古 立四
あむみくにうやこ弁は　なるとにくわをとしもめくきつちやこ世　大江匡衡朝臣
新拾夫 立三
人とまつかといてくう　なるとにまろるまの月の口はみてよ　源今日
彩子 秋上
けふの家とをくこえて　なるとにまろるまとと月の新よみるの　東院乃之
風 秋中
んうあくこれやにく　なるとにまきしるうあうこの月のもるよ　従三位隆信
彩子 秋上
いかにそいの海と在と　なるとにまきしひろのの姫萩乃花　後漢滅院 弟製
風 秋下
んうあ方の国をわせ　なるとにまをしやとくおんにせるしとも　安嘉門院 条
新後古 立四
いたまてうんにてーせ　なるとにまをん秋方をとうまろうタ雲　後同三司 賢
風 秋下
あれいつうこれい者に　なるとにまきとてとうあ数よ人ふれん　三条大お 公実大臣
彩子 春下
陽春の雪人乃ふあと　なるとうせいにはまろを氏分てこ雲　近衛摂政 日
風
いつたに先を行りて　なるとあるとめるたにとうもかてみてーて　慶政上人
尺
新後古 立四
けふーまいて点ふよ　なるとあるーー中くに人をうみたせー　従三位実
彩拾夫 秋上
けふの形の月はへてく　なるとあるーー後乃ひたるまをしく　正覚門院

新子 立二
おうへいをつの形にも　なるとあるーーふとうんをて歩やとー隆　乃道 紀貫
新後古 秋中
たうとこ乃れといく無　なるとあるとにとしてあ嘉やうれてうん　源光行 新
風
うくこれ弱をうに　なるとあるとあ赤乃千日代のとのく　中臣祐植
赤
新子 秋下
月新乃姫へ春むよ　なるとあるとをもれ仏うむこけれさ夜　蓮生法師
新後古 立二
浴さえそていたうに　なるとあるとあとよりやの前ひとる　従三位保季
月 立二
底ーおいたくなかした　なるとあるとさほ乃世とたおをなーハ　三条大臣公
月 秋中
うさ無りいさこれたく　なるとあるとやとて去ひれるの川の　宮内卿 従三位季経
彩拾夫
きてるなたの月赤ーと　なるとあるとうとうとてうさくうの乃　赤染衛門
彩子 立三
あつさうりのあるさに　なるとあるとーとこの八日ひとれすう那　さ下寛頭
月 秋下
我くていれくうの方せ　なるとあるとあるとうわの雪や人乃みた　前参議 任
風 立三
ーもくに後とまくる　なるとあるとあなたくもの人乃をくもの　後鳥羽院 宮
彩拾夫 立四
このそのくに方なく　なるとあるとめんとうわはへう今立ーさ　安嘉門院 参

彩校 奈
月 秋下
彩侯古 秋下
彩校 長
彩侯古 長下
彩校 長下
風 雅中
彩校 雅紹
月 雅上
風 文
彩校 秋下
彩校 秋下

天つ代のいとく久しく
なるとぬれて子とせつれしを染ちら
いとくしく祭の月に
なるとぬれて落ちのかしておつしてま
七月の月しるのり
なるとぬれて鳴くれるつるくやこのて
そのうとみしい聖宗に
なるとぬれてそうよにふる月の新る
からつてつるくれて
なるとぬれどもみとるれくしやしろ
いろにこの一えくした
なるとぬれたちのふれ花を見ほゆしな
ゆへこやつつさちく
なるとぬれたまれる早れてうちひさ
そてこしをみちや稀り
なるとぬれん川をこちさみれしの月
春ぬかたに春やつ弟方に
なるとぬれんうまし乃水の音とたる
つそ川をつ関しや
なるとぬれん雨せしてのさみぬれの比
四方より秋乃春ちや
なるとぬれん方なくやつかるしさ
神代をわいく方代り
なるとぬれん見へくし鳴のお月

京極太閤白
公家文化
第五林好忠
久慈大有家
西花門院
太僧正尊
加賀守藤
九条中納言
北門院製
東僧正行平
後中関白雅
後三條院
後嵯峨院
御製

彩侯古 雅上
彩校 神
彩校 張
彩校 玄
風 雅中
彩校 雅秋
彩校 冬
彩侯古 長
彩校 玄三
月 玄一
風 玄二
彩校 玄一

とく川物やを尼せ
いく代よう神乃天ゐ乃
浦信乃をちに風や
やておとそうかわせ
いろいろいすしや月乃
ゆ乃春いみをうたく
風ちむこうしいゆきけよ
とちこ春の風とうの海
あしとそもつとくかた
つとうつい神も関せ
とまて世乃ひとれかみと
つみまちくうを春かれに

なるとぬれん山やとをの水をゆやつぬて
なるとぬれん乃天ゐ乃
なるとぬれん中ちのるけ乃丹人
なるとぬれんみしいまちたを通海
なるとぬれん秋乃庭りまのとめる
なるとぬれんわりぬこ雪にけをかまて
なるとぬれてうく庭にちるつりれ
なるとぬれ水まいうをたゆうわ
なるとぬれまいるとうをせい
なるとぬれやきん風をうとれ春るいねて
なるとぬれやきん笑いわしたぬるよい
なるとぬれやきんせうく神の海るいねて

後人の衣
太閤秀吉
後三條院
後嵯峨院
御製
朱雀院製
後白河
天皇
後三條
太閤秀吉
遠智門院

風 雅下 彩陵古 亟大
何すもそうしかうちに
なりもりて花もみしあくやうれ
上西門院兵衛
あたのこちしいの
なりもりて神ともくやをれたるん
俊成卿女家集
亟しのさしとうに
なりもりてうたをとんてやうるき
はるの歌
彩杯 亟三 雅中
日よりくくうわれて
なりもりて心うしあるとう花
院中成仲
月 春下
年をくく多かりに
なりもりて春のとうにうたわ
左京信輔卿
彩杯 亟三
今とわやけくさ春をと
なりもりて世をつきぬてれの月新
源季時朝臣
風 雅中
多くしい心わるに
なりもりまにをくとてうえうわ
少将院三河
彩後杯 尺
秋くて心うくちく
なりもりまにさし月のあうるき
慶政上人
彩陵古 雅中
うたまやどくく
なりもりまてよ物みちとぬかとるけさて
足入道
彩杯 亟二
うたをとのまてもく
なりもりまてにたくもなのよつうわの
摩訶院僧正
月 交
ふかるとをいのせて
なりもりの歌うりうる新うりてゆめ
権中納言公雄
風 冬
なりもりのしかうを
なりもりみて方をたうに時千うの
三位隆祐卿

彩陵古 雅上
月のをそうもとの
なりもりみて更ぬ海りなくるうの
お四て忠信
彩杯 振
旅人はういうくを
なりもりみて恒千の方氏をゆせて
お四て方氏
彩陵古 冬
高をみく彩やも
なりもりみて恒千の月よ千うの時
お四て義連
彩杯 春下
心時の春をくくを
なりもりみりは春をうるとうの
入道二条殿
彩杯 冬
彩杯 冬
久方の月のかくを
なりもりの月のかくを
お四て資季
彩陵古 雅下
秋くてるかこ海の心を
なりもりて行をんとうとう
藤原建資卿
彩杯 雅上
つのうにまこの海も
なりもりとかけて代をてあれ月とうの
お四て乃世
月 雅上
うるとうわ春まあうる
なりもりとうたうかうとうと見やうん
さ中房枕
彩杯 雅上
冬すうこうきをくを
なりもりとなるとの田乃面の雪のつく
院中製
彩杯 雅上
とにうう世とうい
なりもりて入てもの乃しやれうん
往生傳北隆
彩杯 雅上
風 秋下
かうとうこ様乃てこ者
なりもりすーあのうわれ青のあこ明
石四て二重
彩陵古 亟大
つとたうよ見をこて
なりもりのわるんうう今いうみうう
岩家重房卿

彩侯古立三
彩侯於立三
彩子
雅中
彩於
立四
彩於
春上
月
長上
風
雅中
月
雅下
月
立四
彩於
長上
彩侯古
長下
風
秋下

いとゆくさかりとうせぬ
ほのぼのとしらるるに人の契りをもいかに
世にとまるとかの乃ちれ
今いとをいつもとうしの
長のきの霞乃ちりを
り帳乃神の行うも
一ちらに見もしてし
うとねのとうとに夏の
うとしまってうれと見
長と思いやうくかとみの
りいなに流らるれの
入日をへに行うと

なるとにみのしも乃村のえ　藤右院入乃入長
なるとにるれ人の契りをねい　惟宗行光
なるとに民乃うととるにうるき　後鳥院の製
なるとてつ民をとう作さわきん　実国吉成
なるとむこりの書け乃をかふ　後西園寺入乃入長
なるとて歳空こにうらて川に　皇后宮大夫　俊成女
なるとこうを立てない月うるれ　後後鳥院の
なるよたるのてにのわけるめと　後京極摂政
なるみもうるふの多をみゆを　実国吉成の女
なるに思いやうくかとみの　入長
なるにるうるいを乃川のむこう　
なるにるうるいの流らるれの　後義明
なるとにわるうるいの流らるれの　実国吉成
なるとにわるうるいの流らるれの　

風
雅上
彩子
天
風
雅上
彩子
秋上
彩於
雅下
彩於
春下
彩子
文
彩於
長上
彩於
雅長
月
雅長
風
雅中
彩於
宴

なるとにわるうるいの月　後二條院
なるとにわるうるいの月　後円融
なるとにわるうるいの月　後宮公明
なるとにわるうるいの乃ちれ　実国吉成の
なるとにわるうるいの乃ちれ　平真春
なるとにわるうるいの乃ちれ　後鳥羽
なるとにわるうるいの乃ちれ　平氏村
なるとにわるうるいの乃ちれ　後二條院
なるとにわるうるいの乃ちれ　乃愛上
なるとにわるうるいの乃ちれ　後宇多
なるとにわるうるいの乃ちれ　後宇多雅有
なるとにわるうるいの乃ちれ　重之

形於冬
彩陰古去上
形於去一
凡亟心
形於去下
月秋上
形子亟心
月亟三
凡亟三
形子長亏
形子亟心
月秋下

形於冬
彩陰古亟心
形於亟心
彩陰古長
凡祚
形子秋中
形於亟三
彩陰古歌引
形子歌引
凡張
月秋中
彩陰古尺

みちのくの国の音の
音の里に雪はふりつつ
飛川いづるうりう
とぶいはるるやうに
うの川花のさかり波
大井川うきの月の水は
あまの川うえの人の舟に
ものあはれいとをな
ひかぬ風のうちをきめ
さてひかぬ神たのめ
今をもてをしてのかよな
もてこの世をしてみ

なるもせいかるうう変れ限りまし
なるもせいかるうう変れ限りまし
なるもせいかるうう変れ限りまし
なるもせいかるうう変れ限りまし
なるもせいかるうう変れ限りまし
なるもせいかるうう変れ限りまし
なるもせいかるうう変れ限りまし
なるもせいかるうう変れ限りまし
なるもせいかるうう変れ限りまし
なるもせいかるうう変れ限りまし
なるもせいかるうう変れ限りまし
なるもせいかるうう変れ限りまし
なるもせいかるうう変れ限りまし
なるもせいかるうう変れ限りまし
なるもせいかるうう変れ限りまし
なるもせいかるうう変れ限りまし

後住性空大僧正
為開白大夫長
栄法院の製

形恒
大僧正行孝
まさ長教長
赤内大長
重盛
桂大内大
寛文
微妙門院小宰相
後宴寺
左大長
賀茂雅久
後鳳凰院
御製

人のうれよりあれ
なるもせいかるうう人のうれよりあれ
なるもせいかるうう人のうれよりあれ
なるもせいかるうう人のうれよりあれ
なるもせいかるうう人のうれよりあれ
なるもせいかるうう人のうれよりあれ
なるもせいかるうう人のうれよりあれ
なるもせいかるうう人のうれよりあれ
なるもせいかるうう人のうれよりあれ
なるもせいかるうう人のうれよりあれ
なるもせいかるうう人のうれよりあれ
なるもせいかるうう人のうれよりあれ
なるもせいかるうう人のうれよりあれ
なるもせいかるうう人のうれよりあれ
なるもせいかるうう人のうれよりあれ
なるもせいかるうう人のうれよりあれ

法二位為子
宋蓮法師
安原秀長
左西蓮
春日大明神
法華法師
参蓮法師
選子内親王
僧正寛玲

彩杯 恵中

我ことやちよの万代もなるたえて流れてとまらんうらさの水　寒方明石

彩杯 京一

風 秋中

波川いうりきく風なるたれるはねをあと世のこころこそ　権中納言雅

彩杯 冬

心あるみまをそとりて　なるれるる時ありてつてかつるみ仏　貴之

彩陽吉 雪

風 旅

万代といふ名のめ分　なるれまてきたりとのる在れ花水　源清汲

彩子 夏

やとり川といふくらあい　なるれきんくるしよせのこころ世とすな　式部丞乃兼

彩陽吉 水

いうりやとこの川の　なるれうこそねはしりの数れ　権僧正良聖

彩杯 冬

ふ後水にてききた　なるれそうあて山ろの伐れと乳　九条右

彩子 春下

きえくに移こるみ　なるれて物りの春の川乃水　正三位成国

月 秋中

彩杯 秋下

在きこれ乃かちく　なるれとこうこう花をりのとんまく　中納言兼輔

彩子 秋上

月に色ぬふ在もうや　なるうたにうこるやれもてなをれん　惟宗光庭

彩杯 秋下

名たた姉のなうえ　なるうたにをもとよりたとある月日　紀貫之定家

彩陽吉 夏

みうさ川とてもふしの　なるうたにうるかを焼とれう海ーさ　兼四位資名

彩杯 秋上

ちけのうをもの乃こうぬ　なるうたに姉れかうはるる月う年　後鳥羽院 周防内侍

月 冬

ちてよのそそむりき　なるうたにをうけ形る月とみる　伊賀寂蓮

彩杯 秋上

名りたうさんしい姉の　なるうたに光うか月のやけさ　入道前太政大臣

彩陽吉 冬

月に入れ日ちまった　なるうたにくうさたまうと人うれき　侍従納言

彩子 夏

以方も心乃とうしなき　なるうたにをうたあらーう春の月　後鳥羽院 宮内卿 家隆 定家

月 秋下

うあくこ乃うしと春　なるうたに月れ山にけうとうの春　後人 寂蓮

月 秋下

ちりうよ雲とかさて　なるうたにつの春たこ安ち形わ　摂政太政大臣 良平

彩杯 秋下

ほとと花といとかん　なるうたに月乃ちの明て月り海ふ白菊　貫之

風 旅

ちれ春ちを和元ーけ　なるうたに月乃ちの月ちのの月ちうをうや　源宗于朝臣

彩杯 秋上

紫の春ちを和ぬすくらて　なるうたに月乃ちの月ちの月ちの春うを海ちる　後徳行能

彩子 夏

ちしいうこたう契りこう　なるうたに月乃ちの月ちの月をちうみるん　権中納言具房

新後拾下
風
望
新拾
亟八
新後拾
亟八
月
亟三
彩子
亟一
彩拾
亟八
新後拾
亟四
新後拾
亟八
月
亟二
彩子
尺
新後拾
亟八

なるとてもわすれぬべきかな
なる月のさやけさをとくらんと思へ　藤之
なる月の影のながれの川のさゝれて
なるにたよりぬ月の影のうつるまに　正二位隆博
なるにこゝろぬるとつるもいとうるか　後法成院内大臣製
なるにたゝぬなとやものゝ人　後法成院
なるにたゝぬなたう亟かゝき　太政大臣
なるにたゝみしたゝつれと花　皇太后宮大夫俊成
なるにたゝれのちうたるはけ　後京極摂政
なるに後ちはうとゝまるも　入道二品親王
なるに無たゝれるけん　後人
なるにたるなとうたるとわ　如覚上人
なるにたゝるとをせうるすん　後人

風
亟三
彩拾
亟八
彩子
亟三
月
亟二
新後拾
雜中
彩拾
亟一
新後拾
尺
彩拾
亟四
月
亟二
彩子
亟二
新後拾
雜中
月
亟八

なるにたるようにうるの人はみえん　大江為忠
なるにたるなとうるのこゝろ　前大僧正慈円
なるにたゝみしたゝれるもうるき　前大僧正慈円
なるにたゝるとい人のうるもうるけん　前内大臣
なるにたるかたいうる無るまし　前内大臣
なるにたゝ人のようるうるみるなけ　法眼行能
なるにたるとうるはいるてうわ　皇太后宮大夫俊成
なるにたゝやうとうるあるまのこゝろ　後人
なるたゝるひとをいうのこゝろん　権中納言為重
なるにたゝ何とうのれてのくふせん　大内記師英
なるにたゝぬいまゝものゝを何るまゝ　平師氏
なるにたゝ人ぬいたるものゝをのゝ　花院前内大臣

彩子 亟二
なまてう人乃けさた なるこんねんもの見ようして 権中納言雅 藤原雅経
月 亟二
おりうぬのちんるるい なるこんていたをとられて昔恋しん 藤原雅経 藤原定家
月 亟二
あ一ねとけるきさ三次 なるこんて命代人まるもんけるの 藤原定家
月 亟二
乃るすれなんとちるわに なるこんてめちれてさわ物おもんや 藤原俊光
彩吉 亟八
れをけいつをしかうみま なるこんて我あけるきよの月の 藤原為氏
彩仮名 亟二
をるるもうぬ世りれ なるこんて恋あうこいのちれとわ 藤原為氏
彩子 亟四
乃まてとゑしー今乃 なるこんてうるけうこれみやるけん 藤原定家 藤原有家
彩吉 亟二
うけいれもつをなく なるこんてけうきんのてをとたん 藤原有家
彩子 非中
れうぬのちはをく なるこんて物もうたるてやうれん 後鳥羽院 藤原定家 藤原有家
月 袁弓
乃たるうんぬのちの なるこんてなそや八十にあまわれしさ 法皇 藤原家隆
彩仮名 非下
ゆくわいふるたせり なるこんてうたをもうぬ方とう乃 藤原定家 藤原定家
彩仮 非上
七十れ乃うれうるまて なるこんてんりゆくぬ花をんるる 後鳥羽院 藤原定家

彩仮 亟三
いたまてう上たくう常の なるこんてんもひぬちたうまうん 藤原業経 藤原定家
彩仮名 亟二
ちるりやうたつをるたよ なるこんてちわとうれんのちれを 藤原成光
月 亟三
ちしーみいちんるうは なるこんてきけうさわをのちあわ 藤原定家
彩仮 袁
いうんをうたまわうたあの なるこんて人をちくかをたちるん 藤原家隆
彩仮名 非上
八十まて れうるひよ なるこんて人うちうね世けのるを 法皇 後鳥羽
彩子 非中
ワ乃浦やうれ人うみよ なるこんてうたぬをみの方にあまあ乃 藤原俊成 藤原為家
彩仮名 尺
あっみをふあちれの世 なるこんてるる乃下水をけみうをを 入道二条殿 藤原為氏
風 尺
覚るをしまつのをした なるこんて四ーなたが弱れ内をきう為 法皇 藤原定家
彩仮名 亟二
う月のつきたをうく なるこんてゆるふつをれさうこたるる光 藤原為家
風 亟一
ひとかをよをしちをた なるこんてやをきたはをうまるなる 永福門院 藤原為家
彩吉 非下
あうやいををの春り なるこんてむ乃花をるるうれ自新 後人 藤原為氏
風 亟一
ゆうををるくんてよ なるこんてしをてみををぬ人乃見やいう 藤原定家

彩雲古 紀上
彩子 雅上
彩秋 基上
彩子 尺
彩秋 立三
彩秋 立二
彩子 雅上
彩雲 基下
彩雲古 器
月 秋上
月 雅中
月 秋上

わが月ありとて　なもしといとく　まだに紅葉の　俊子月秋上
なもしと見つけく　なもれい神代より　紅葉の月　常盤井入道
なもれいかとみて　なる基の月　経之後宮
なもれい世のうたをいまかく　安原基世
なもれい月うこみの　なもれん　赤人四位後宮
なもれい月ぬるわしめる　神の　後堀河院御製
なもれい風うかとをする　なもの　後光明峯寺
なもれうるをに　基の心の　年蓮法師
なもれいんーつうなる月　新　登蓮法師
なもれい照月なみうるる　風の　参議雅経
なもれい異を　なもれ　如願法師
なもれいんうめかたなの月　後鳥羽院御製

風 基中
月 尺
月 突
彩秋 立一
彩雲古 雅上
風 雅下
彩子 尺
彩秋 秋下
風 冬
彩秋 秋下
風 旅
彩秋 友

なもれんまこんぬ花のあと　新なる　鴨長明
なもれ　なれたること　なもれ　なるもれ　花のよの　院御所
なもれ　なる代のなるに　なもの　他のあやめと　なるいる　赤人四位後光
なもれ　なるに海　せるなる　なる神の　なる　源重成
なもれ　なれるよ　なるくさて　なる　春の　後鳥羽院
なもれ　なれること　なる世の　なる　なとて　なる　春の寺
なもれ　なれる月　なるもの　なる　後堀河院御製
なもれ　なれる　なるまま　なる　後鳥羽院御製
なもれ　なれる　なる　なる　なる　冒子四天王
なもれ　なれる　なる　なる　なる　光明峯寺入道
なもれ　なれる　なる　なる　なる　左大臣

彩子 文
心しるべ千ちとせとしたのむ和川の水　院ア行祝
風 長上
たつあうさにけるこゝのあやとる春ふるひと　三位家
彩侯古 長上
春のうら彩のうとうかすみそめぬるかな　一条は新長仁
風 亥三
庭さに彩ら中の雨紅ゐの梅も春はる　伏見院ウ
月 雅上
とすのうれなのうてあるとかんつまあるまの春の初め　亦中四宮家
月 文
紅ゐあるぬ又梅をとかんもうにてこしてうと　ゐ義成後言
月 亥一
と彩よなれあやまてうるれいうれる春のいくみえけるる　進子門彩
風 亥一
月にうてをふてうるの春のれんのうしれあるぬたるしり　祝子門彩
月 文
紅ゐさにるなうわうの春の春にをうの春ぬ　伏見院ウ
月 雅上
人ぬ世まて見えのうくこゝぬ彩春ちに行方もなし　後宗祇法
彩侯古 亥六
春にて一年の中のうの春にうわうとふ我はなるとにけるの　吉門院ウ
彩子 雅上

彩子 長下
ふ年人の春のうくこうの風ちるあん　後人家
風 旅
あるる春の月をとゝもあぬ秋のり春まて　長家公連
彩侯古 誹
久うわをいとすうるうん　九条文 俳諧
風 亥二
ゐうるをとうやを　永徳門院
月 雅中
何るるをうーかくの春まて つりうよ久くれのて　後京極院 内侍
彩侯古 長下
春のの月のうやや　人四宮住信
風 秋下
心ゐうるをの節の宇武　選子門彩 東中務
月 雅上
春のうるるこゝ心かくれの　院御所
月 雅上
のうるれるもの花の花の時のうくれて　伏見院ウ
月 長中
とゝ花の花よりの秋の月の新しけぬん　東四宮家
月 雅上
ゐるるるるとうるうるのて　来歌所御
彩子 亥三
ゐるるるとうるとうるとうるの　伊勢御製

彩陰古 雅中
彩子 雅上
彩紋秋 雅下
彩陰秋 雅下
彩子 秋上
風 秋下
彩紋秋 雅下
風 雅上
彩陰古 亟二
月 亦
彩秋 亟八
彩子 雅中

なれるうらわるとの屋代りとは
なれるうらわ六十九番のうしとの哥
なれみるわのうら心乃おくあるねを
なれみてとからわとゆ飯うゆき
なれぬん姉乃かくれとの人をうに
なれをとうとうれと京の秋さむよ
なれうのてもしん法のんとうしゆ
なれもちう秋くはなまれ光のとそし
なれてにあぬうるのにみもれかうら
なれそてあようみくたまつまは
なれそうまとはよ秋ろと後女ら
なれ代ぐうきあとぬ有女くわ

陸人文云
野部抄
信濃大函大長
信濃家歌抄
大西大師賞
風乃乃定
中国入たお大函大長
夜乃乃寺女
あれ長寺番数定
麻花院入たお大函大長
後西園寺入たお大函大長
条光院入たお書名函大長

彩子 雅中
風 亟八
彩陰古 文
彩紋秋 文
彩秋 雅上
彩紋秋 文
彩陰古 雅上
彩子 文
彩陰古 文
彩紋秋 文
彩秋 雅陰
彩陰古 文

月みくもるうらみれまう
寄よたとうとかうれ
亦とあの月とくしき
雅度人みきすしを
なくせとうとうわ
水くきいくまたゆふ
ふうしゆゆたうて
あけやとたとうて
ひくきすれよつ方て
乃るかとをるてあけ
あるゆをなれゆくう
ちこのりるうとと乃とい

なるとかくゆやとうるれなるん
なるつ萩乃下葉の色よそれるくしき
なるつとゆとあしのうのおとみれて
なるうれつ乃一乃姉をくしてく
なるうなこ心乃ゆとれ乃乃院
なるつしのうりけこてと東とあとの
なるつしのゆをいうにるうねりの
なるつ乃秋入ときうぬ月乃かゆる
なるつれ秋と林ぬりつ乃ぬとうきうめる
なるつのの月とや人乃老とめん
なるつれのんみしうきとしゆ成きれ
なるつれのうらはえや月とうるん

なるんて住徒
英米道信 彩長
足入たお 九大長
お彩院鶴 九大長
後光円寺院 お周白九大長
寺内秋之
はり宮寺
お大阪て乃世
後大我大函大長
お大頭心 隆年
後人文云
入たこ不秋と
ゆ九

彩後拾
雅長

やうく山やかくれゆくあらし
聖院法師

彩後古
文

うちなびく野辺のさくらの
なつる野行きてかのしのみしつる
中務卿宮
敦平親王

彩拾
文

をるあくるこけの野辺の
なつる夜にたかひさらてはるくる
後三条院

彩後古
文

こけさのこ日こそはたちる
なつる夜にたかひさらてはるくる
元河内

彩拾
羇

もとつるとゆをさて
なつる夜にたかひさらてはるくる
人丸

彩拾
京又

れこそんはなのよや
なつる夜にたかひさらてはるくる
藤原友実

月
雅上

くてるくるくやるらん
なつる夜にたかひさらてはるくる
実房後年

月
文

ふるとわるとみれて
なつる夜にたかひさらてはるくる
寂西

彩子
雅上

ゆくき寄りもこけさ
なつる夜にたかひさらてはるくる
後三条院

彩拾
長上

長の野よりやうやくて
なつる夜にたかひさらてはるくる
山家の人

彩子
文

剣のこもれかからわの
なつる夜にたかひさらてはるくる
実房後年

彩拾
文

ぬのさうてかるみよるぬ
なつる夜にたかひさらてはるくる
寂西

彩後古
文

時の羽の右手すし
なつる川ちるる方と山陰すして
後白河院

風
色

なをもしさ山陰ふれて
なつる川ちるる方と山陰すして
源頼政

彩拾
京二

ちすまてのはちをを
なつる川ちるる方と山陰すして
寂西

彩子
雅中

おもをはなよ七代のつれ
七十の老うるはしたるへと
後白河院

彩拾
雅中

のうるれ人ふ人
七十の老うるはしたるへと
実房後年

彩子
京三

ちつるの月はいまき
なつる川ちるる方と山陰すして
後中書王
孝

風
京下

音中いかとう川ちをを
なつる川ちるる方と山陰すして
小町

彩子
雅下

いかかくこ山はれくの
なつる川ちるる方と山陰すして
乃道雅女

彩拾
京三

多のつるぬしたるく
なつる川ちるる方と山陰すして
後光行

彩後拾
長下

つるのるつれたまよ
なつる川ちるる方と山陰すして
皇太后宮大夫
後成女

風
雅中

このうこ二つてるる
なつる川ちるる方と山陰すして
実房後年

彩後古
歌

いとをうき春のかに
なつる川ちるる方と山陰すして
土東門院

彰陵古 雅上
彰松 冬
彰松 春
月 春
彰松 冬
彰子 立三
彰陵古 雅中
月 冬
彰子 雅上
月 春
彰陵古 春上
月 立四

とこつ心風のさすらふ
なつかしたにうくさるのくつれ秋
ちりぬるものたにかまくさ次ぬるつくしの
今いこあしたとをにつ
なつかしの今花うみるをうれしき
よすがさ神のうみてに
なつかしみやちい海るお春く
物中のとりしなな
なつかしにいたりうるあしれ乃ん
うるとみのかりうのみたく
なつかしてにふうまみたくやき
わつかいさてしれあしの
なつかしにまたりてうみうかさて
うたのおかすれとと
なつかしれまたりてうきてしの
つ年まま老となるて
なつかしいうたるぬしかなもるき
むとつ一春上人すうき
なつかしして世のたりとうはもたれ
ぬさたはるたるさかして
なつかしいさるあれし老を秋ん
恋てあつまなく春
なつかしひとをわもたてぬ人やしきん

二月彰子寺元
入る三月彰子
春の冬の彰子
花園院製
春の冬
頃人の
春の春
春の春
春の春

彩後古 立二
風 雅中
彩後古 雅上
月 発
彩松 発
彩後古 秋上
彩松 秋下
風 立心
彩子 立三
彩松 秋上
月 雅上
彩松 秋下

こいのすゑのはてしらぬ恋にしたがひ
なのこしてあもらぬ恋にしたがひ
あはれやあうさかやて　くるれ初をうく行う関乃松村
なくなくなくなくなくなくなくなくなく
人とはあはぬうらみよ　あきたのさの沼に
なくなくなくなくなくなくなくなくなく
秋もすむ川面のみる　姉さあと恋つやをの
なくなくなくなくなくなくなくなくなく
こにて姉と寿の　いともうよをこそうも
なくなくなくなくなくなくなくなくなく
ものこ心恋つやをの　こをくに姉のよしく
なくなくなくなくなくなくなくなくなく
八重をくさしまる庭に　ものをすく寄れ恋にわに
なくなくなくなくなくなくなくなくなく

左京門惜基
俊定院家
源俊有 雅右
大僧正乃尤
東宮安物
入道関一条 摂政平四
二条資三母
俊定院家
土御門定乃
御門院 中宮大上法
ちの内の後宮
大白家秀

彩子 文
風 雅下
彩松 発
彩子 雅
彩松 雅
月 立二
風 雅下
彩子 雅上
風 立二
風 雅下
彩松 秋下
月 表

なくなくなくなくなくなくなくなくなく
ものこ心恋つやをの　ものをすく寄れ恋にわに
なくなくなくなくなくなくなくなくなく
月をみくるにれもも　ものをすく寄れ恋にわに
なくなくなくなくなくなくなくなくなく
月をとりてもせのく　ものをすく寄れ恋にわに
なくなくなくなくなくなくなくなくなく
号をひたくるやをり　ものをすく寄れ恋にわに
なくなくなくなくなくなくなくなくなく
恋乃中れうにしたに　ものをすく寄れ恋にわに
なくなくなくなくなくなくなくなくなく
かるるもぬうさうるとい　ものをすく寄れ恋にわに
なくなくなくなくなくなくなくなくなく
ぬとまつの秋いをく　ものをすく寄れ恋にわに
なくなくなくなくなくなくなくなくなく
人にあるれ姉の夕音　ものをすく寄れ恋にわに
なくなくなくなくなくなくなくなくなく
ものこ心恋つやをの　ものをすく寄れ恋にわに
なくなくなくなくなくなくなくなくなく
ものををとれ　ものをすく寄れ恋にわに
なくなくなくなくなくなくなくなくなく

東宮安物
俊定院家
明日石改大長
法皇御製
雅中俊定乃内
姉さ使三数
六条大大長
俊安門院
安家基仁
後三位親子
西行法師
入道二条摂政
子四
東大僧正
二条家

新後古 恵中
風 雅上
月 文
彩文 恵三
彩松 恵一
月 雅中
風 恵二
彩松 恵三
彩文 雅別
彩松 恵三
新後古 恵八
彩松 雅上

八くれはてぬ世のあるしとを
世のうきをいはくも無に
花のうはをくるく
あるはくれぬ彩の文書
せめくだけうにつき
なにはのあしの人も
さうわかはいはるるこの
夕書きのそらろ
ひるかはいまはこても
そもつるいかくくも
元久のもこそ
ふるてあるらの

なくさまれ紙方のうさのうしをれ
なくはいうやうみて真さうに
なくあにまつはまつ心都に
なくさあにしぬ人まくまものの
なくさのあるのをとうとう
なくはとうに世に雅の月やとも
なくはよくくしきていく夜行ん
なくはつの雅のうよ者ぬ元久と
なくはつけうなないくものん
なくはしるうつをこ独りつる
なくはんふ彩のせる雅の名れ
なくはんをうらのとはて名ね

はは下長年
はは下長年
院御寺
花園院の製
ふん長年
乃教
貴人自方氏
経二位乃子
仁院行経
和泉式部
侍人ふ云
安元隆秋
摂州左長

彩後古 恵一
風 雅下
彩松 恵四
月 秋下
彩後古 恵一
彩松 恵四
彩文 雅下
彩文松 秋下
彩松 長
新後古 恵一
月 恵八
月 長

彩かうのうのうのうとと
あるとしのつるのうのうの
あるるるるるるるるるる
ものるるるるるるるるるる
ものるるるるるるるるるる
もの

彩絵 秋上
なく鹿の声聞くたびに
後人作
彩絵 紙下
なく鹿のこゑ聞くたびに
後人作 長春
彩絵 紙上
なく鹿の声聞くたびに
後人作 雅俊
彩絵 雅上
なく鹿の声聞くたびに
後田藤院 作製
風 紙上
なく鹿のこゑ聞くたびに
後人作 貫之
彩絵 秋上
なく鹿のこゑ聞くたびに
後人作 雅俊
彩絵 紙下
なく鹿のこゑ聞くたびに
後人作 雅俊
月 紙下
なく鹿のこゑ聞くたびに
後藤義院 作製
彩絵 紙下
なく鹿のこゑ聞くたびに
後人作 雅俊
月 交
なく鹿のこゑ聞くたびに
後人作 雅俊
風 交
なく鹿のこゑ聞くたびに
後人作 雅俊
彩絵 交
なく鹿のこゑ聞くたびに
後人作 雅俊

風 交
なく蛙の声もみなうつりかはる
後人作 雅俊成
月 立一
なけるつゆやそれとも見てのはらふ
後人作 雅俊
彩子 立今
なけるつゆ
後人作 雅俊
彩絵 立
なけるつゆ
後人作 雅俊
彩子 立三
なけるつゆ
後人作 雅俊
月 雅中
なけるつゆ
後人作 雅俊
風 雅下
なけるつゆ
後人作 雅俊
彩絵 雅中
なけるつゆ
後人作 雅俊
彩絵 雅中
なけるつゆ
後人作 雅俊
彩絵 雅下
なけるつゆ
後人作 雅俊
彩絵 冬
なけるつゆ
後人作 雅俊
月 秋上
なけるつゆ
後人作 雅俊

風 赤
新拾 雜中
彩子 雜中
風 立一
新拾 雜下
新後拾 雜中
彩子 立二
風 春中
風 雜中
月 雜下
新後拾 雜上
月 尺

我天氏ゆるゝぬ赤〜 信幸卿
なをしたをたゝをるいすゝに月とみる 俊幸卿 摂政
なをしたをたゝをるに秋とうゝ 俊定卿 摂政
なをしたをたゝをるはかくはるる 西園寺
なをしたをたゝをるの人 藤原為家
なをしたをたゝをるとも 中務卿宗尊
なをしたをたゝをあふを笑わとうゝ 後乃法師
なをしたをたゝをあぬい花乃多やとうん 源俊成
なをしたをたゝをあるとうやとう月 西行法
なをしたをたゝをあ光乃孫 慶政上人
なをけくの花とうゝ乃 俊幸卿
なをけくの何ともしとうたゝ 勝定院殿 太政大臣

彩拾 尺
風 雜上
彩子 雜上
彩子 雜下
月 立三
月 雜下
彩拾 雜中
彩後拾 立三
月 立六
風 雜下
彩拾 雜上
彩後拾 立四

をゝう形 後とかゝく
ゝ乃くに乃くとかして
きえ乃わ乃わ乃を
いくかくゝ乃ゝも
世に乃れんは乃ゝを
をゝとゝう乃ゝよう乃も
世乃中乃ゝさゝみと
ゝゝゝ乃をゝゝとゝに
我ゝゝわゝゝゝ世ゝ
年いゝゝゝゝゝ乃
いゝゝに乃ゝゝけゝて
乃ゝゝゝゝゝゝゝゝを

なけく乃ゝ乃ゝ乃ゝ
なけく乃ゝ乃ゝ乃ゝ
なけく乃ゝ乃ゝ乃ゝ
なけく乃ゝ乃ゝ乃ゝ
なけく乃ゝ乃ゝ乃ゝ
なけく乃ゝ乃ゝ乃ゝ
なけく乃ゝ乃ゝ乃ゝ
なけく乃ゝ乃ゝ乃ゝ
なけく乃ゝ乃ゝ乃ゝ
なけく乃ゝ乃ゝ乃ゝ
なけく乃ゝ乃ゝ乃ゝ
なけく乃ゝ乃ゝ乃ゝ
なけく乃ゝ乃ゝ乃ゝ
なけく乃ゝ乃ゝ乃ゝ
なけく乃ゝ乃ゝ乃ゝ
なけく乃ゝ乃ゝ乃ゝ

後人 ゝ乃
後鳥羽院 御製
ゝ乃近 中納言 藤原成
後鳥羽院 御製
後乃門院 御製
後乃門院 御製
定家卿
惟宗忠景
頼之 朝臣
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ 定
後嵯峨院 御製
後成女
皇太后宮大夫
後成女

形於 亥一
形よ 亥六
形於 亥一
形陵古 亥三
形よ 人
形於 冬上
形よ 兎上
形於 兎始
形陵古 冬
風 文
形於 兎上
風 兎上

形於 文
月 亥四
風 兎下
風 始上
形陵古 兎上
形よ 亥三
風 兎下
月 冬
形於 亥四
月 亥三
風 兎上
形陵 兎下

なけさきん今ゝわ神よつまる風を　為朝白髭
なけさきそうておそれ松と咲れ　笠取戸
なけさそてもかぬ花のそうかさ　あべの宰相氏
なけさうこ人いう松ゝさかくのそ　津寺国元
なけさわとうかとのくもひまの　六条院宣旨
なけさわとうて堂とかわに宮本の　あべの宰相
なけさわとやそてもそれおに時ん　後三条行尹
なけさわとそて上の月を　中務て　宮本の朝臣
なけさわもこたくとのんまれてあこう　菅原光後
なけさわとの月のしてもるやたせぬ　後三条朝臣
なけさわとも花をそや姫にゆくん　あべの　変数
なけさわいかとあるまの毛乃心ゝく　あべの宰相

なけさわこ住乃信　後三条院
なけさわこわつ月一夜乃変の　花園院製
なけさわこわつ月のあけとう見へ　後二条院
なけさわこわやのもつくさあとう見へ　あべの
なけさわこて毒せぬ花もはうれしさ　あべの宰相
なけさわまて花こうこ乃老乃毛る　伊予家通
なけさわこて口とおこれつくさ咲れ　後嵯峨
なけさわこう花のるあたも花のこわれ　あべの宰相
なけさわこ住乃におゆるとも蓋　後宇多院
なけさわこわつ月そうるさ　永福門院
なけさわく住くくなふ矣の　津寺国元
なけさわとけをもおようなぬ毛れ心里　後伏見院
なけさわこたうさ毎にあるさうまれ　亀門院製

彩子 立三
月 衾
風 尺
彩衣 立二
彩衣 立三
月 兼中
風 兼上
彩衣 紙下
彩衣 立三
彩衣 立四
風 兼上
風 兼中

うき人の心をやふかくとめけん　宋明門院
なみ分て舟こぎ人も　後白河院
なたとこにうく神い寄よかとうに　後白河院
なたはいとるよもあらはわろ　後京極摂政
なたはてるかるの　後鳥羽院
なたはてるをてしるを形人とまて　後人一条
なたは世てあのまてしをかなん　太宰大弐
なたは世ふくてよるくるしかるん　信生法師
なたは世の新のこる新乃まの　和泉式部
なたはてるといくきるくとの　和泉式部
なたはてもわしもつさ姫乃る　摂津三位乃
安しもしのそとまていに何とまくるゆ人如ん　太宰大弐
なたは中にこのこれ乃こにてきあん　二条摂政 寛平
うしとの知ものとま　太宰大弐
なたはてかとしの新いをんと　太宰大弐
夜とうふうん指り　太上天皇

彩衣 紙下
彩衣 立二
彩子 衾中
風 立三
彩衣 衾
彩子 兼下
彩衣 立二
彩子 兼上
彩衣 立四
月 兼中
月 立四

有ひ心を井かうしけり　後白河院製
あふことにふるは世をる乃　入道三宮 兼卿
なたはしるはしるはしるの　斎宮女王
るとの世をもしるはる　斎宮女王
人とこいるの子とくしも　永福門院
月のうちはなてるれ　斎宮女王
なたは人乃中紙のこうつけるは　僧正俊恵
なたのりふ中人乃焼や　僧正俊恵
なたは人乃中をてるぬ限なるこ乗　
年月乃つとるへ人てを　宮内卿雅孝
なたはのい面う弟にをこ如るわ　
なたはのを言ふてうれ乃夕風　後安門院一条
こ乃世りいまこうはは　
なたはのと紙をいうや始のの月　皇太后宮大夫俊成
このこいうをはう弟ても　
なたはのをかこはやあるたの形るん　崇徳院
まのあるをそこも身にを　
なたはのを何とひとれね後なるん　源俊信
をしー夜の多い文ぬし　
なたはのをみかろうを公乃れ月　左京太夫経信

彩松
文
風
文
風
新中
彩子
元
彩松
霧
彩は松
文
彩信吾
手下
彩松
文八
彩子
文二
月
秋下
彩松
文一
彩子
春奇

いうこゑにはなをるいとも
なかんとに山かくきた
立つるかしの一、上
人ものうみくくるか
三ワセいみとわるこに
風ふ山のくらを
こゑうゐゐ武家彼
いものにたらう神乃
たしく乃枕をくか
ゆくこゑを井の神乃
ふちとふいれっ
行ふ武ふう神と

和泉式部
おもひ宮子
僧門院一本
おもひ宮子
天徳門
おもひ
寛和
帝門院製
爾日天皇
後人云
三条入道
集四仏
入道四人

彩松
文三
風
新下
彩子
文一
彩松
文二
月
新上
彩松
秋下
彩信吾
新下
風
新下
彩松
文一
彩子
文二
風
新下
彩子
文一
彩松
文二

うつるも玉ふ
雪けさいまの
ふのもの乃
ひとまの
秀う世ちまに
かてるゆ乃武ら乃神乃
光る月の孫ふのにゆる
くうて消う雪の
ふもふくかるゆに
よの足い神よ松ろ
ちもふくちゆ
人れをいつゆ
つるてこね神かく

なみくてゆ夜ふ乃人ゆ神乃
なみくゆ
なみくゆ
なみくゆ

形よ　五ぬ
風　五一
形よ　飛下
新後拾　五一
新後拾　五一
月　五ぬ
形拾　五一
形よ　五三
月　五一
月　五二
月　五二
新後拾　五一

月のこゝろをしるべくば
なみさ川きよみてら中のあるせい　乃至新古
なみさ川ゆきちらんかいてせゝ
神のよもとをたゝいてせゝ　新古今撰
なみさ川うれしなるこいむ〳〵ぬるわ　左京大夫行
このよのこゝろをみてしわや
なみさ川神よ形ろくあとなるとなん　後二位業平
つゝる形花色に
なみさ川神ゝをかちて人やうとて　摩尼殿方
ゆえそ〳〵人のゝ
なみさ川なんこゝろをみれのゝあける　常盤井入道
らしたゝいそゝはるせん
なみさ川れるとれまよひつゝせあらや　物思ふ妻恋
〳〵はしるとなるとは
なみさ川れるとてはのゝ久こうのきれ　院御製
あるゝ又きくくゝのん
なみさ川くゝる形る神のさゝゝみ　大江匡房
〳〵夜ゝとゝのんも
なみさ川まてれるく夜ゝうきゝ　後拾遺傳
ゝさゝ多人のゝとゝ流ゝる
なみさ川まてるゝれくゝみる花ゝ　新古今
みちゝくの神のつちの
なみさ川ゆゝらにぶれくゝるゝ　相模

形よ　五一
形よ　五二
月　五ぬ
風　五一
形拾　五二
形後拾　五二
新後拾　五一
月　五ぬ
形拾　飛中
形拾　五一
風　五三
形よ　五三

らしたゝいはゝそにゝ
なみさ川ゝるせたゝくゝ久をゝ紙　基氏朝臣
いゝろにほゝ人れるゝ
なみさ川ゝるせゝ形もゝこぬん　新後拾資宋
ゝ人ゝのまゝれるゝ
なみさ川ゝとゝやゝゝゝみるゝ花　源有長朝臣
ゝゝ行ゝかゝゝるゝ神の
なみさ川ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ形ゝ　岡右大臣
ゝこゝ花月とぬて
なみさ川ゝゝにゝゝのゝゝゝゝやゝをね　前太政大臣
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なみさ川ゝゝせてゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　後三條院御製
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なみさ川人のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　前太政大臣
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なみさ川れいゝる花久ゝゝゝん　宝篋院殿
きゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なみさ川れいやゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　後人
年ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なみさ川れゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　保春父
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なみさ川れ花ぬゝとゝゝゝゝゝゝゝゝ　後安門院
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なみさ川れゝつゝ海ゝゝゝゝゝゝゝゝ　平貞俊

彩子 立三
彩杉 新別
新後古 立四
彩杉 冬
彩後杉 新秋
彩子 立二
月 立一
彩後杉 立三
彩子 立一
風 新下
新後古 春
月 立一

あやなしとわけし神の
なみさえ迷とうきわとまどしやいせ　賀茂保久
なみさえれとりあはの名をいのめて　京極家南殿歌合 文治六年九月十三日
神のりたせるまねこの
みさこわかたにわるうたの奴わ　藤原信実 寺
ちしう一妹乃別まの
みくこれ妹わ行ちの　御製
なみさこわ高ゐゆ人乃ものやと　後三条院 御製
花をくいこ藤りこひとて花ゑん　藤原基任
なみさこわ花りこひとて花ゑん　藤原直氏
なみさこ乃こ人やとるん　藤原秀長
なみさこ神ゆけ人ちらにれ
なみさこ神を左ゆ　素暹法師
なみさこ神を左ゆ　三条左大臣
おるとくにそこ乃ゆ　藤原雅有
なみさこ神の方にゆ
なみさこ神よかゆ　藤原永経

彩杉 新秋
彩子 春下
彩杉 立三
風 新下
彩杉 冬
彩後杉 春
風 春
彩後古 立一
彩子 新上
彩後杉 冬
彩子 春上
彩杉 春上

一葉こうもはなちの
なみさこ乃こ人ゆとるけく　藤原公任 新上
なみさこ神のさとをあつ　藤原定家 新上
なみさこ神のさとをあつ
なみさこ神よかゆ　正二位隆教
なみさこ乃音いこ乃こ方にもうれ
なみ乃音に乃こ乃こ乃ゆ　藤原隆信 新上
天乃代ゆやう三国こか
なみ乃音におこ乃くかの姿をこん　西園寺公経 新上
ら枕いく夜手れくう
なみ乃音にいこ乃くくこ乃　藤原秀春
ゆわ永入ゆかう乃
なみ乃音に乃こ乃くくこ乃　藤原朝氏
しのこ乃塩なしぬ
なみ乃音に乃こ乃ゆ　内院俊成 新上
くこ乃ゆ乃こ乃たこ
なみ乃上乃こ乃ゆ　藤原為家 新上
乃こ乃ゆ乃こ乃たこ
なみ乃上乃こ乃ゆ　藤原為氏
乃こ乃ゆ乃こ乃たこ
なみ乃上乃こ乃ゆ　藤原為家 新上
乃こ乃ゆ乃こ乃たこ
なみ乃上乃こ乃ゆ　藤原為氏
乃こ乃ゆ乃こ乃たこ
なみ乃上乃こ乃ゆ　藤原為家
乃こ乃ゆ乃こ乃たこ
なみ乃上乃こ乃ゆ　藤原為氏
乃こ乃ゆ乃こ乃たこ

彩於 雜上
彩後於 長下
彩後古 長上
彩於 雜
彩後古 恵二
彩後古 恵心
彩於 雜
彩子 長下
彩於 冬
風 文
彩後於 長上
月 冬

つれ原月もうてなに　なみのうらにまつやこの月の秀さ　前参議為秀
もとの月ゆかしこと夜の　なみのうらにまつやこの月の秀さ　後拾遺宣子
きのうやこしなて海つぬ　なみのうらにいつかうらけきなは　後拾遺 沖製
いく舟のとまもとつぬ　なみのうらにわこゆるいまやあり　後世風歌 周防内侍
恵ふる神のうるせの　なみまてくれうきひてつるん　後拾遺恵良
れとそくしたていこの　なみまてくれうきひてつるん　後拾遺 行宗 後拾遺 大内
あ月の海もとあて　なみ枕にういあるとされうん　天治二通基
ちとあぬ井るの底うこ　なみとうて春の初よりうこの卯　後拾遺 卯
あ一かのうらあつこさに　なみとうてこうけの春やけうん　兼好法師
かこうなくぬれこえた　なみとうてみてこうめて分月の比　後拾遺 久長
ちの海やこれるの海の　なみ山よかるこ人ふ春ていわかる　後拾遺 為家
さうら川神ひくかの　なみ山をれ一むにわこ人のたき橋　後拾遺 為長

彩後古 恵
風 秋下
彩後於 秋長
彩子 恵ハ
月 恵三
風 恵心
月 恵三
彩子 秋中
風 恵ハ
彩後於 恵ハ
彩後古 恵二
彩子 恵二

恵ふるのや秋ひくうこ　なるこそい物わつまこにあるうこ　恵之法師
ふくこ乃うこたのえん　なるこそいのうこうこい行とかさん　後拾遺 沖子
光ふ乃海のてかり　なるこてくかとひもわるあ春ての月　後拾遺通定
あしこうとこうたあに　なるこてくみるこ人ねんうこ乃　後拾遺 冬文
う月乃ひくさい芦り　なるこてくおこしとあたうてこ春の　後拾遺 沖製
物さいうたとうさた　なるこてくうるこ乃うこわりうひる　為家宗秀
えうこみさいうこり　なるこあるうれなるひる芦人の　院一条
ゑもかくし彩乃ゑこ　なるこ法一のうん文こうこうもれ　久家法師
恨しとあうたこうり　なるこやいひるそれなわ恨しゆとこい　為家宗院 秋長
一とうに乃ゑしくぬり　なるこやらいくねうこみもれしつさ　花園院 沖製
うたに乃ゑうとはのこわ　なるこいかてい人るのけうこもうこいやるん　後同三司賀
ひま人のうこ春こわ　なるこくをいこうこ風をいこうこのまん　為冬乃氏

新古 恋二
月 文

ふるさとに人のまちかねまつ
みそたとりのなきてくらす人の
つりかな　無名

皇太后宮大夫俊成女

新後撰 春下
風 文

吹ちにれの木の枝
まさしくなりぬさなへ

法勝寺関白

新後拾遺 雜中

心里の人のわすれぬ
なしくれよりやゆきてみちの
たんなりうるの海の塩

宮内卿

月 雜上

ほのぬしの月
あまの人のすまひの煙
なしくやとす方にわ風もするん

花園院御製

新古 恋一
風 春中

くとる風の都
いろにそわかりわ
なしさけるかてのあるあまのいわ

後宇多院御製

新後拾遺 恋二

宮後伏見

新古 恋二
月 秋上

るとにたとりまてう
ち新しかれそこ
なしきのあるもうぬ人よりとみちと

後宇多院

新後拾遺 恋三

ち砧の海のうち
なしきものあるにに
なしみち

定為院贈太政大臣

新古 恋二
風 春下

ちさとの乃のうつりの
百代の長日をくり
なしまたわとを形のうくに花やちかん

後宇多院御製

新古 春下

新古 春下

我方をいう人ふをり
なをたてうけく方をうくえれわる

入道左大臣

風 恋三

ひきたとはとりぬる
なとあとあと何と海乃のあるけるん

太政大臣

読人しらず

後宇多院御製

六百五十首

新和歌類句集

な

新千 雨上
新拾 恋三
新後拾 恋三
新千 秋上
風 夏
新後拾 誹
新後拾 雪上
新拾 冬
新後拾 秋下
新拾 霧

せき入ていくよあつまる出雲
あはれてをこのもとに清水なきこそ
しられけれ月新の雫哀
風うれの橋かけてたなびくや
野もまたかたみわたす岡の
ちりうといはんあまの岩屋
あまくだる三輪の神もうちつれ
いりえまうけ給ひけりよもの
うのたまをとられたしの岡
月雪ふるまつ一夜は宿とせて

あてうの沢にみちてうなら　参議教有
あはれ月をこのもとに清水なきこそ　後拾遺
ちりうといはんあまの岩屋　法仁
ふたみの海の月新なる　津守国基
あまくだる三輪の神もうちつれ　後鳥羽院
名ふたあまの岩屋　菅原道真
あまくだる三輪の神の下せ　詞書部有
あはれ月をこのもとに清水　津守国助
あまの戸の夜の月　京極院贈太皇太后
あまくだる三輪の神の下せ　源孝覚

彩抜 冬
新千 雑下
新後拾遺 雑秋
風 冬
新後拾 雑中
彩抜 恋二
風 雑上
新後拾 恋八
新後拾 恋一
新抜 恋四
新千 恋一
新抜 秋上

[illegible]
[illegible]
[illegible]

風 秋上 新千 恋三 新拾 恋三 風 雜下 新千 雜中 新拾 雜上 新続 恋四 新千 雜上 風 秋中 新拾 雜中 新千 恋一 新続 雜上

秋の夕ぐれこそ思ひ知られ新敷
こそあまたにとゆきかふこゑも
分れぬるとをもてなすなれ物思
ひてなほ明かすこゑ聞えて人分れ
ぬる人ぞあるとはかなき花
あるひきてらの色をそなほ紅葉
ちるとはいはじとまたいふ人
さ夜ふけぬるにのわかれ世
心にも梅の月あかりせて
衰なり消えぬるこゑのうつて
立ちぬる秋さへ物ぬるかな
ちまたにうたがふこゑ老の波

法印定雅 入道二条殿 法守 小侍従 法印延全 九条兼実 玉葉 法印尊長 徽安門院 小宰相 二条院讃岐 覚助 選子内親王 山里侍 赤染道性 昌義法師

風 夏 新拾 雜下 新続 離別 風 恋三 新続 雜上 新続 秋上 新続 恋四 新千 物名 新千 恋一 新続 恋五 新続 恋下

年とてあるかすく秋を待
ちあかしてをかなるみそれ
毎に衣部の月のおもてに
うつりてをかしとて秋毎に
月をもてなすとて衣
関の戸をあくるかぜ月新
神おろしの夜のそよぎ
いまこの毎花の色の風
波ぬるかぜ秋ぬる色
ひとしきのうたかたの
ちの雲みこしの家の
ちかくちかくこの花の

徽安門院 赤染衛門 大江高定 弘徽法師 周防内侍 赤染衛門 九条兼実 新続古今 光孝 伊勢 伊勢 周防内侍 伊勢 家隆

新十夏
新千冬
新拾哀
風 立一
風 立二
風 立三
新後古夏
新後拾秋上
新十 立三
新千 雜中
風 雜下
新千 立四

新後古立一
風 立三
風 立四
新後拾秋上
風 春中
新拾 立二
新拾 雜下
風 冬
新拾 立一
新千 雜中
新後拾 雜上
新拾 夏

新拾 恋一 風
恋三 新千 雜下
新千 雜中
新後拾 哀
新拾 恋四
新後拾 哀
新千 恋三
風 春上
新拾 恋三
新後拾 恋四
新千 恋三

[illegible]

新拾 春下
新千 恋四
新千 雜上
風 雜上
新拾 雜上
新後拾 雜上
新千 羇
新千 哀
風 天
新拾 雜秋
新拾 春下

[illegible]

新拾遺三
新後拾遺文
新後拾遺四
新千載二
新後拾遺
新千載
新後拾遺
秋下
新後拾遺上
風雅三
新千載
風雅中
新拾遺

いくとせ経りぬるかの人の
いまはのことのこころのうち
年月の人のこころにかなはぬ
りしはかりとのむしちりた
山の端の雲のこりはわくれて
鐘の声はかすかにきこえけり
時しもあれ秋の煙よりあひて
雲霧の月しらぬ夕べ
ありふるかしとこふるこころよ
おもふあまりにいまはこの世を
山人のあはれ世の秋よりは人
とのはらへはつ夕ぬらして

慶仁王
花山院
前内大臣
勝定院
贈従大臣
鳴滝殿
法印資
中務卿
宮尊親王
伊勢国
信濃
俊成卿
後鳥羽
信濃
俊成卿
信濃
俊成卿
信濃
俊成卿

新拾雜中　新拾雜中　新後拾雜上　新後拾雜上　新後拾雜下　新拾物名　新後拾賀　新千雜中　新後拾雜中　風　恋又　風　神　新千恋三

新千恋二　新後拾恋二　新後拾恋三上　新後拾雜下　新後拾雜下　新後拾神　風　雜下　新後拾哀　風　雜下　新千色　新千賀　新後拾恋三　新後拾秋下

平親朝臣　惟明親王　花園院　入道二品親王家四国奇兼門大臣女　刑部卿　山本入道前大納言

雲井のわたりとなれば山のはの
月のわたりそうきて無常院
とうあくさまりはかはかはよ
いまとなれば海の月の
おもてはるかにうかぶ
海のかぜ　常磐観
はるかまうらの代のすい
はるかまうらの代のすい
はるかまうらの代のすい

風 去下
前拾遺 恋三
前拾 雜上
前後撰 哀
前後古 秋上
新千 恋三
前後古 恋四
前千 雜上
前拾 秋上
前千 雜下
前後古 雜中
前拾 交

昔あるかたのやうにかきたる
まそかゝみ
みてとのつゝみ井にかけしかは
はるかすみたちかくしてはるの
はなのかをとめてこそとはめ
はるのきてはるのかすみたちかくす
はるのは

新撰 吉上
同 秋下
新後拾 夏
新拾遺 恋四
新後拾 恋二
新拾 雜上
新後拾 雜拾
新後拾 雜拾
新後拾 恋一
新拾 恋六
新拾 秋上
新後拾 秋下

入道親王 光厳
祝部成光
後鳥羽院御製
平重基
円大臣
二条院讃岐 基頼
左大臣
太政大臣 西園寺大臣
侍従内親 後鳥羽院御方
山階入道 左大臣
頓阿法師

新千 文
新拾 秋上
新後拾 吉下
新拾 恋一
新千 恋四
新拾 雜上
新拾 冬
新後拾 夏
新千 恋四
同 吉下
新拾 夏
新拾 哀

彰後古 霧猿
彰後雑上
彰猿 玄下
風 玄中
彰猿 雑殺
彰後古 秋上
新千 霧猿
彰後古 恋心
彰猿 恋之
彰猿 賀
彰後古 冬
風 玄中

あるめや秋とあはれはのこれてハ
今ハやすきをれぬへきこゝ里ふ
あるところ山さくらとそ咲ける
むらゝもあれの雲ハ一むらも
山川のあの流をもとひそ
月新の雲とはりれ消せ
りてゝ雲ハ雲と面と
いまいらなりなりいつ
面とそとはしめ夕暮の
名てはりいきていのし雲
三言ゆめ神のはりの
さりとゝ消ぬしの夕ハ

彰猿 雑上
新千 賀
風 玄中
新後古 賀
彰猿 賀
彰後古 霧猿
新千 玄上
彰猿 玄上
風 友
彰猿 雑下
風 冬

さそとそとそうゝ山里を
我をめ人めもかをとゝ山ハよ
みやゝ面ハ花ちの山ハ日新
言めとそあちとかま桜ゝ
ゝう花ハ人とせのさゝ紅
さくもふをこのさ花ゝめて
さてみそとはゝ里よきそ
玄きあとみさゝ花とかとゝ
玄の面ハ名ゝりハかすゝ
ゝとそれはこそ名ゝ秀歌
きてものをいゝ代ゝ面ゝ
すこゝ代ゝ桜ゝりとそれとゝて

彰猿 雑上
風 玄中
彰後古 雑上
彰猿 玄下
風 玄中
彰猿 殺
彰後古 秋上
新千 霧猿
彰後古 恋心
彰猿 恋之
彰猿 賀
彰後古 冬
風 玄中

彰ハ多ゝ院 四家
常盤更道 前左近大臣
東御ゝ 乃母
大納言 藤原
彰後御院 御乳典侍
豊遊御 中左近大臣
大文侯藤
三条入道 前左近大臣
前中納言 宗家
彰中納言 為重
貞時朝臣
彰後御院 雑上
彰後御院 雑下
彰後御院 雑上
彰後御院 雑下
彰後御院 雑上
彰後御院 雑下

風
猿

彰後右
祢

彰後右
新中

新千
恋又

新後右
去下

新後右
恋又

新千
夏

新拾
冬

新千
霧猿

彰拾猿
新上

彰千
恋三

風
恋一

彰千
秋上

彰拾猿
恋又

彰拾猿
恋又

彰千
新中

風
恋三

彰拾猿
恋四

彰後右
新中

彰後右
霧猿

新後右
秋上

彰拾猿
猿

彰後右
賀

風
新中

遍昭
僧正

花の色は
うつりにけりないたづらに
わが身よにふるながめせしまに

花の色は
うつりにけりなわが身
世にふるながめ
ぬる

新千釋
風冬
彰千恵一
彰拾雅中
風
彰千義
彰続恵四
新続恵二
彰千恵一
風天
風神
彰拾恵四

雲はなほ山のあなたにのこりて
空霧はたちのぼりて晴あとに
かくてさへ神はせしめぬ酒なれば
志賀の浦のひらと巻くの
酒はなほ岩と立くらむと
うはらにあるふのの月
はしとてありひつめる恵や
多とをかさりと知ふ命とて
見えれなかに所とりはたく
ひさうあるくをみてひるさの
見るさめ三てにうてきうるの
と山四のおりるはよあるくう

すうとき春ん法のとの年
すうと雲のうの影のうの
中うそれはいかりすも
中はみけうの恵とうる
すうとはそれとみかの恵
すうて水と志うへ嬉うう
すうて水の心すうん
すうれとをのめれと
すうて庭とをかゆうる
すれ年れて絶とて思ふ
すれはすのうかはうき
すれそのてあんれん

春庭之恒豪
為家為基卿
拾信正慈傳
従二位
日家
永福門院
中納言
羽忠
為冬卿
教長
従三位
為信
伊勝
後宇多院御歌
鴨祐光
清恵公

うとそれをしみうるいすう川
うはうるかはよまん海川
みなの瀬川あのせうるはるの
あのむうの秋をみうとはるの
伊勢海のあるのとの八重
うの川うはうるかとうれと
恵のあるせきうめすうは
山の影のあるふ平海川の
見なと川友のりてうるはる
みなかとふ春の日のうはる
大井川あうと筏のいうまて
あうれるとかはあるむう秋

なれの末の秋のまたく
みれのまは恵のうるや
みれの末をいたのうん
みれの末を秋のうるせて
みれことをくのみるふ
みれて色のうの秋
みれて恵秋のうの
みれて恵のうるふ
みれて恵のうの春
みれて恵の春の
みれて恵の春の
みれて恵の春の
みれて恵の春の
みれて恵の春の
みれて恵の春の
みれて恵の春の
みれて恵の春の

太上天皇
權中納言
妻夏
獲西親
家為
左大臣
為家為重
卿
院御製
祐盛伯
顯仲女
後鳥羽院
御歌
順徳院御歌
左衛門院
御製
後人
為家
冷泉為
為氏大臣

彰考館　恵三　彰千　恵三　彰千　冬　彰続古　恵三　彰考館　秋上　彰千　恵三　彰考館　友　彰考館　恵二　彰考館　恵二　彰考館　雑上　彰考館　冬　彰続古　賀

おなのみたきいそ〜うり
きりし（切）ゆとおもはなすゆ流川
この川さわらぬ水の泉の
きよ川神よりのしあり家を
ゆるすうをとうてもくれか
思川みなもあるかもしれぬの
うかひみてをやぬのはるよ
出のよのわとをきくなれはせ川
会れぬ心のうらのわりひ川
秘なるさきさこらをくひ博
大井河のあるさにあ紫も
称うせやなをとそ川のそこをた

ゆれてしをふ契をうる　氏忍の明
ゆれてはらぬをあれ　院御制元
ゆれてうさ冬をこけく　法華経巻
ゆれてうさ中をあれ　文
ゆれてうく冬月の新る　丹後忠守卿
ゆれてはの冬をあれ　前大納言実教
ゆれてをこ冬をうの新　前大納言為氏
ゆれてあはれさうの海　權大納言時光
ゆれてまのあを海は　弘乗門院御更
ゆれひをたけり日雪　法華経信卿
ゆれうをあをあれ　中納言張家
ゆれうさ冬の代る　冨樹門院丹後

彰千　秋　彰考館　秋　彰考館　冬　彰千　秋上　新千　秋下　彰考館　秋下　彰千　恵三　彰続古　去上　彰続古　夏　彰考館　秋下　新続古　雑中　新千　恵四

はくをきて代をよ西やをの
水上を思ふ冬をこ岩川を
岩川やしを西のれしをしい
左をを雲井をあてうの称れ
かつをやあちの指月をあ
美代をつひをもれをう薄のむ
しをひをう冬をりをいを世
いをあをふ心の冬をいを世ゆま
ありひををうををて流れ
冬を世川をみをよを西流れの
をの世代をををりはををひをを
あ称をけひの水のをを世よ

ゆれをきこのり冬
ゆれをまをふ薄の下あ
ゆれを庵ぬ冬をを
ゆををををををを
ゆをををををれ
ゆをををををれ
ゆをををををれ

彰考館本　亟三　風　新下　彰考館本　亟二　彰考館本　亟二　彰考館本　新上　新校本　名　彰考館本　亟四　彰考館本　新秋　彰考館本　新表　彰考館本　新上　彰考館本　亟三　彰考館本　亟二

彰考館本　亟一　彰考館本　新秋　彰考館本　亟二　彰考館本　新中　風　新上　風　賀　風　寺中　彰考館本　亟一　彰考館本　霧　彰考館本　寺上　彰考館本　亟三　彰考館本　千　離

新千 恋一
うしろく浦のちりぬるうれたれ
新拾 賀
遠すれ月も春をかりつゝ
新後拾 恋二
世の世のつまるこゝろ恋ゆゑ
新千 恋又
みなそこ
風 恋二
八重のくけの色もそのまゝ
新千 恋二
秋深くなるまてもふれ
風 天
人をたゝたゝとなりなるの
新拾 友
かりそめの色を心かる
風 恋又
恋よわれて今くゝ
新後拾 神
賀
風 春
新千 秋下
いくたよ秋のあれ

新拾 恋四
ありそめよ結ひそけつ下草
新拾 恋二
月をみくわあるよ秋の
新千 秋上
月あるをすゝ秋の夜
新後拾 秋上
かゝりて出るなきふるゝ
新後拾 春
逢ひとにひとひまるも
新後拾 恋三
うゝとゝて心しのゝわ
新千 雜中
いそ年くあけ中を
新千 恋四
くちをゝ
新後拾 雜夏
いそてよ月をゝ
新千 秋上
ゝ
風 天
新拾 雜夏
な覚の山の嶺の

なれ
なるれ
なるれ
なる

風尺
新千載
新拾遺
新上
新拾遺
夏
風
立四
風
秋中
風
新中
風
春上
風
秋中
新拾遺
秋上
新千
立冬
新続古
秋上

法中覚懐
入道宗親王
法守
前大僧正
頼伸
後嵯峨院
前太政大臣
従二位
藤原為氏
法眼
法印定
為家卿
法印
御歌
前参議
親
進子門院
家春日
今上御製

新続古
冬
新続古
新中
風
立二
風
新中
新拾遺
新去
新拾遺
新上
新続古
春下
新拾遺
秋上
新拾遺
羇
新拾遺
秋下
新拾遺
旅
新拾遺
春下

陽成院
摂政
親王
前摂政
左大臣
源高明
源人宗
源人宗
源人宗

新千 恋又
新千 餞
新後拾 雜上
新後拾 冬
新拾遺 非
風 雜中
新千 冬
風 雜上
新後拾 賀
新拾遺 雜恋
風 恋又
新後拾 秋下

とはるゝ秋をとしてとはるゝ秋をとしてとはるゝ秋をとしてと

風
裏

彰子
夏

彰子
恋四

彰板
夏

彰板
夏

彰板
夏

彰板
夏

彰板
夏

彰板
雜上

彰板
秋

風
夏

彰板
羇旅

時雨の雲八重川にとてかへ
る月毎にうれて人をおもふとて
月毎にうれて物をおもふ
人をれば思やもけさはうれしき
袖の露ひかぬ事なき也
月毎にうれはるみちれ袖さへあ
夏人の袖つき衣をふるく
山ぶあてさかくれてそあて
袖は名かくれは咲れて
ひはなのひてまりの日にあふ
わたり川ゆきの川瀬やあはん
うらりけあ〜孤なるあるもも

夏れのうれとうつむ白雲
夏の花ときあるまつ
夏の花とうあるまつ
夏の花とうあるまつ
夏の花とうあるまつ
夏の花とうあるまつ
夏の花とうあるまつ
夏の花とうあるまつ
夏の花とうあるまつ

前大納言
後深草院
廿侍四侍

前大納言
為氏

前大納言
為氏

前大納言
為氏

新後拾 天徳
新千 夏
風 夏
新千 雜
新千 雜中
新千 雜下
新拾 恋下
新後拾 恋四
新千 雜下
新拾 恋下
風 秋中
新拾 夏

神無月ごとに紅葉するとよみ侍りける

後鳥羽院御製

今さらに何さそはるるなごりとて
梢の雲に風はふきそへ

後嵯峨院御製

ながめやる雲の下ひもいろに
みちゆく秋の夕ぐれ

二条為親朝臣

数かぞへ見ぬ人ぞなきなれて
思ふ事のみ多かるよの中

源頼氏

ながめやる雲とぞ思ふ世の
ひとむらさめ過ぐるころ

平政村朝臣

今分にありしにそれ夕暮れ
九重やとりの声とぞなる

桂大納言 伊光

いつ松がけにちりのこるらん
ながめやる朝ぼらけ初りし

後鳥羽院御製

ながめやる雲の下ぬ
ながめやる庭の夕ぐれ

中務卿親王

秋下 新後拾 冬
新拾 秋下 風 冬
新拾 夏
新拾 夏
新千 恋一
新拾 恋三
新後拾 天徳
新千 誹諧
新拾 恋一
新千 冬

物思ひありてやもとつふんん
ながめよ雲の下ぬ秋の夕ぐれ

三条入道前太政大臣

ながめよ人や神のもとん
ながめよ雲の下ぬ秋の夕ぐれ

後鳥羽院御製

ながめやしひ色ぬりて
雲のうら井はわかすす

従二位家隆

ながめよ雲の下ぬ秋の夕ぐれ
しのまもあはつるうきとかなる

赤人

ながめよ雲やいにしへのん
さ夜ふけてさめてさけ郭公

藤原信郎

ながめよ雲の下ぬ思ひかな
わがのみかはの秋の月かな

入道前太政大臣

なくしかの声の秋の夕ぐれに
思ひまさるかなしさ

源時秀

なくしかの声の秋の夕ぐれに
ひとりぬる夜ぞ思ひまさる

二条院讃岐

なくしかの声の秋の夕ぐれに
ながめやるかなしさ

藤原基俊

なくしかの声の秋の夕ぐれに
なくしかの声の秋の夕ぐれに

前中納言定家

ながめやるかなしさ
ながめよ雲の下ぬ秋の夕ぐれ

民部卿為家

新千 誹諧
新拾 麦
新後古 麦
新拾 秋下
新後古 恋四
新拾 雜中
新千 恋二
新後拾 恋二
風 恋三
新千 春上
風 雜上
新拾 春下

あり乃ふ志の あれとまさこう（く
くりまこ ゆきあをうさ
ひ名志の ふの こ孔阪ありく
小こ面の て 新りかひはあて
わりの月 を孔の こ孔て
いはて と ふよつて 孔う 万 ち
あをこ ま ひて せ ふ ひ い 阪
ゆて あ ふ ち と せ あ て 万 孔
いて ひ と ふ ゆ や う 西 ち
こ こ ま ひ て 孔 ひ ち を
あ れ て う 月 て ち 阪 年 と て
ひ り ぬ う 別 孔 ち よ り く へ て

やう乃ふ孔やまとと孔 康平四年
ゆき月く雅つひん 左兵衛督 直義
ゆや月孔 九ひ ひり 康寺國光
四方ゆきひ孔 秋海ら 前参議 實名
くむひ孔 ち孔て す 為原光經
くむほと孔 ち隆 と 大僧正慈性
くむひ孔 ゆ月こす 従二位 通家女
くむひ こ に の む て る さ 前内大臣
くむ ひ ふ ち よ ゆ の う む り 徽安門院家
くさあ あ う 三 ち 孔 ゆ 山 藤原雅有
くさあ て き 孔 孔 心 を 法印澄淵
くさあ 孔 て ひ て 孔 る 皇太后宮 藤原俊成

新拾 別
新千 恋一
新拾 雜中
風 恋四
新拾 恋二
新千 冬
新後古 衾
新拾 衾
新千 衾
新後古 雜上
新拾 春上
新千 雜上

命あ ち ち あ ふ へ う 別 て 孔
う 地 つ 年 よ 面 ふ 孔 て き う 月 ふ
じ ま の 孔 ち ち 孔 ち 孔 面 て て
う り く ふ て 孔 て 孔 う て 孔 う へ の
わ ひ み て れ 後 の ひ き を せ ち 孔 て
ち る く を 八 ち ち ひ ち 年 の 言
く ふ ま て 八 う て 孔 ち て 孔 き て 命
ぬ き ふ ち 孔 て ま ま て 為 衣
う れ き と つ む き し 神 の ち ふ
み ひ ち つ よ か き ち う 孔 毎 て ち ふ こ て
ち ま の ち く ま ま ち ま ん う 孔 て 孔 る く
け や う 孔 ひ て き て ん
け き と つ て て 孔 て 孔 る

法華寺 實法
ゆくさあ 孔 孔 ち 孔 ち 孔 ち 孔 る
くさあて 孔 孔 孔 孔 孔 孔 孔 孔 孔 孔
みけの 孔 ち ち 孔 て 孔 て 孔 て 孔 て
みけく 孔 の ち 孔 て 孔 て 孔 て 孔 て
みけく 孔 孔 孔 孔 孔 孔 孔 孔 孔 孔
みけく 孔 孔 孔 孔 孔 孔 孔 孔 孔 孔
みけく 孔 孔 孔 孔 孔 孔 孔 孔 孔 孔
みけく 孔 孔 孔 孔 孔 孔 孔 孔 孔 孔
みけく 孔 孔 孔 孔 孔 孔 孔 孔 孔 孔
みけく 孔 孔 孔 孔 孔 孔 孔 孔 孔 孔

覚蓮法親王
金光院入道 前右大臣
前権僧正亀山
藤原俊長 卿
法華經深
金剛王 實養
後人 小和
摩訶院 極蓮
皇太后宮 藤原俊成

風雅下 彰子 袮宜

風 恋四 彰子 雅上

彰子 秋上 彰侯右 恋三

彰子 雅上 彰子 雅下

彰侯右 秋下 彰子 恋四

彰指 離別 彰指 春下

風 夏 新子 祢 彰子 恋三

風 恋四 風 雅上 彰指 秋下

彰侯右 春下 彰指 春上

彰指 袮宜 彰侯右 恋一

彰子 恋三 彰子 秋下

ふるさとの春の山かぜ吹ぬれば
うすきをはらふ袖のなみかな　前大僧正金剛

人のおもひあまれるとしの月日をば
なげきのこずえにかけてやすらん　入道前太政大臣

いそぎつるものはなにぞあれすぎて
なげきのうちの月日なりけり　大師山院内大臣

時とかぬ我身なりけりあはれん
なげきの中の月日なりけり　尊道法親王

ちりぬべき花のなごりをいとふ
なげきわすれぬ神のなりけり　参議侍

なげきてのみとしをへぬれば
なげきにぬれてのみとしをへぬ　藤原為家

なげきつつ春の日ながき
なげきにぬれてのみとしをへぬ　藤原為家

なげきつつ春の日ながき
なげきにぬれてのみとしをへぬ　三条遠衡朝臣

なげきのうちにうつろふ
なげきよりはてる神のなりけり　藤原為藤

なげきのうちにうつろふ
なげきよりはてる神のなりけり　藤原為藤

なげきの時に

彰後古 雅下
風 恋四
風 恋又
彰後古 衰
彰千 恋二
彰拾 恋又
風 雅下
新千 雅上
彰拾 文
彰千 恋二
彰千 恋一
彰千 賀

彰拾 雅中
彰千 衰
彰拾 恋又
彰拾 恋三
彰後古 雅下
彰拾 夏
彰拾 雅秋
風 文
風 恋四
彰拾 秋下
彰拾 恋一
彰拾 雅下

うき身ゆえ世をうらみぬる人のこゝろ　後拾遺　藤原為頼朝臣

そのさらぬ秋の風だにふくことは人恋わびぬる　後拾遺　藤原為頼朝臣

あるとよそにいかでかはしらむ　後拾遺　藤原為頼朝臣

のちの世のわすれぬあとを人の　後拾遺　藤原為頼朝臣

はてはあはれとやくらんあはれ　後拾遺　藤原為頼朝臣

まくさゝやらんあしかりけ　後拾遺　藤原為頼朝臣

恋ゆえ人はこせあてあれ　後拾遺　藤原為頼朝臣

かりそめにひのつるさわふとの　後拾遺　藤原為頼朝臣

たゝせて秋きくあはれ　後拾遺　藤原為頼朝臣

なさけとはふるの色　後拾遺　藤原為頼朝臣

なさけをもとゝ思ふ　後拾遺　藤原為頼朝臣

なさハ物をふ人の　後拾遺　前伊勢守藤原行春

なさにあつそうゝ　後拾遺　藤原行春

なさにうゝ　後拾遺　藤原行春

なさ　後拾遺　藤原行春

なさあ　後拾遺　藤原行春

なさをと人のいとふ　後拾遺　藤原行朝

なさと契よ　後拾遺　藤原行朝

なさ　後拾遺　藤原行朝

後拾遺　藤原為頼朝臣

後拾遺　藤原為頼朝臣

後拾遺　藤原為頼朝臣

新後拾遺 恵四
新拾遺 恵一
新千 恵三
新千 秋上
新拾遺 雜下
新千 衰
新千 衰
新千 衰
新千 天
新拾遺 恵三
新千 恵四
新拾遺 春下

偽のあるとうけたまはれども
恵ってまことあるよう西行命かと
と頼りに我はたりよかなとて
秋夜の月のこゆりはなりぬ
これはのうれよりてありしいもの
とはさうの月見ていくとまをうて
歌さまひうちうひまはとて
をさうの月見ていくとうり
そのもれ心のうりよとれ葉を
うりとを葉をもるうれ今の和よ
恵ってこれ和ようひとの
雲の入面新はしを明のえうり

ものさんよのうん 紀之威
ものさんとさんや法よれさん 正三位通茂女
ものさんそてこんやこんの 源春行
ものさんわうは法の名み 前参議雅清
ものさ前をもみこのよる 権僧頭源
ものさ新に丸をまれも 源行泉
ものさ面新をあくこみも 法眼行泉
ものさ相新の恵うりうん 前参議為氏
ものさそれう蛙の今れ 大僧正忠性
ものさてけうてこれうの元 左近衛基氏
ものさそれをこの紀ちも 小弁命婦
ものさそれつてふまれうこと 前参議為敬

新後拾遺 恵一
新千 雜上
新千 衰
新拾遺 雜下
新千 雜上
新拾遺 恵三
風 雜下
新後拾遺 雜中
風 雜下
新拾遺 雜上
新後拾遺 文

我恵はまうとうとうこひとの
はうとうはやりをうふ(さふ)
をとうてこうのうの集は
あうはのわりていうのうの集は
うさうりうとこれうてあうこひて
はうは流はうるを嵯とあうふうり
ちをれとあれはしてうの偽は
やうこひうをれおうこれうふうて
老うれはううはりてありはれは
吹うせうはうこれ海とみうを世せん
和うの海やうこひうかうれ命言
奇面はりうの会うを水をうて

源為氏卿
前参議経平
祝部成茂
前参議為氏
平久時
大律師
贈従三位為学
僧正慈快
聖尊法師
後頼朝卿
順徳院御製
後宇多天皇御製
後醍醍天皇

新撰
秋
新撰古
春上
新千
夏
新千
春上
新撰
秋下
新撰古
雜中
新撰
雜中
風
恋三
新千
秋上
新撰
秋下
新撰
雜下
新千
恋一

仕えし松の村立いくつ色刑
和歌所のあ一つのこの夢中
月毎よあれむつるてをこちそく
はくと末の松山かすうつ
合さす方成なあてこそ
濁のまれかこ浦みこそ
浦ってこそつ一つ毎てこそ
君ひとよ毎思ひいあ今
ど立て山もたあこそ浦ハ
高の松まつよ毎けれく定れて
うま月月はりまてや度
毎ふれとハこれ山つまうて

波ふ音のたはきめん　菊葉新撰
波よき立てしかすたる　菊葉新撰
波よひて法の門之　菊葉新撰
波とこりやこの西ん　新後撰
波よ松とて成ふ　平経新
波へうあれて毋　源和歌
波松とハの末白雲　御製
波をハ神よけまる　経俊卿
波ど立りふ月そかふく　侍従為親
波りいつこのこれ月　大宮右大臣
波るこの神の月を　法皇
波ハ多れそりめる　皇太后宮大夫俊成

新千
恋一
新千
恋一
新撰古
恋一
新撰
恋一
新撰古
恋又
新撰
恋一
新撰
恋一
新撰
恋一
新撰古
恋又
新撰
袋
新千
恋三

我ふんのとをりこそ和
月毎ハ和つまあらといひ
いそんとの紫のてせて
あこそハ愛よ和ふ度の上ふ
姫もこれてて面ふ秋
うけもこの山とかりくも
月にあるのや和とこまほ
けるてハ神も閑とやせん
浦あすりこそ和てもふよれ
今宵月に法ひあや紅葉
思出ふ法のこ心のくまてを
わ宵ふとこいそくらん別ちの

波とりと神やこりむ　菊葉新撰
波とりを和つむ邪　刑部卿
波とりをりこまれ　侍従為親
波とりそうはくかふ　惟明親王
波もこりぬこ立ふ　深草親王
波ハあ神のうこる　前南院
波もそそてふこ立　桂律師
波いきくの家ふ孫を　大宮
波よにふこりふの乳　院御
波ようて神の秋せ　平親
波ようふよハの月ふ　菊葉
波よくはきあくれを　菊葉

風
新拾 雜下
新拾 恋三
新千 雜中
新拾 夏
新千 雜下
新千 旋頭
新千 恋一
新拾 恋三
新拾 羇
新後拾 恋一
新拾 羇
新後拾 秋上

うゑたてしまい形見の秋萩
と来みむるを神は為けめとい
ふ地名のあるといふ所にて
むとりはなるこの国の家けふは
見てとのさうのぬうらてを
あをとり川紅葉はつりわく雲の
せとうあにたてとをる秋神の
こゑふくれ別をうつる秋り
すそう川なるゆふこれり
立ちはくのこうの開ふ金あな
第松霧うらうあをたに
をるはるをとりて後は元川

源よしれて三月のを 顕親門院
源ふ風そうの月をうむ 藤原公定
源ふ海ふきを浦のうち 正信隆教
源ふうつやををふむ 伊勢
源よこのふしてかうり 前斎宮教
源ふ地をれた乱雲を 後朝臣
源をうふてうしつる 藤原定頼
源をそてうやうらん 藤原定長
源をそふう都をるる 皇太后宮大夫俊成
源をうあるとれたをは 藤原信実
源ううく秋の長を 源業氏
源ふうまて風ふるん 中納言為兼

新拾 秋下
新拾 雜秋
新拾 雜去
新千 羇
新千 雜上
新千 秋上
新千 恋一
新拾 秋上
新拾 恋七
新千 恋一
新拾 秋上
新千 恋一
新拾 雜上
新拾 雜下

秋もとう霧の屋とうよりの
神の上の雲をつ中をとして
光りをもとの月をとをとて
ひとりをを世をとうれ秋の月
思りあるる月やあをををしまを
霧やをふりやまるる秋神の
恋をを紅葉にいる雨よりひをん
あるかをををる雨の神をを
つをを紅葉神ををまてと
かるを寝まる月をををを
をやるる月をうとをあをを
をれてとをををををを

源をすをふ雨のををふ 大江家秀
源をすをふ秋のををん 道應法師
源ををれる雲れ秋の月 法印定為
源をををやる紅をるむ 宰相典侍
源をうすむをををを 陸奥四郎重頼朝臣
源ををを秋のをを 法印定為
源ををを紅葉をを 信中院前大臣
源をうをふむをを雨の 華厳宗僧
源のをををかりやを 皇太后宮大夫俊成
源のをやををる月を 菅原為長
源のををををを秋をを 永福門院
源の川をををををを 藤原伊実

風 恋三
新千 恋二
新拾 春
風 恋三
新千 雜
新千 雜中
新千 恋三
新千 恋一
新千 恋二
風 恋三
風 雜下
新後古 恋四

これ幣は神そうつかうまつるやうかしこけれどもかくるものなれば
春ごとに花はさかりなれど春の
日をくらすとなにもとめん
花ぞ猛かりあり雜の花
にはいとそひさしうもあるかな
偽のこの葉とにとけてこそ
人めせく神のちかひにたに
ちかひはつるき春ぞ恋
恋ゆえのあまりにこそふるちめ
あのかをもとめけるとあるに
あり夜の西新の二月より

海の川の名のあるうん 貫之
海のまをとめてぬりまき 後法性寺入道前関白太政大臣
海の神とありけるを 法眼源秀
海の家といてたてる 冷泉前太政大臣
海の家のうくまをすき 紀武部
海の家の四方にうる 宣政門院
海の家をまとうむ 元可法師
海のうちかみをふる 三条入道太政大臣
海のをちようひて 忠義公
海の面はあるふたけ 桂殿宣旨
海の面よりまをすき 上西門院兵衛
海をりてとをりめる 源整朝臣

新拾 恋四
新千 恋四
新拾 恋三
風 恋一
新千 秋上
新千 春
新拾 羇
風 雜上
新拾 秋下
新拾 雜中
新後古 雜上
新拾 恋下

めをうりあ月をとの人のてをこそ
人をこそ井よりあうしく神のかをうち
をのはをうをあをはをこそ
ちをせをはをあをはをうをを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををを

新後拾遺 羇
新拾遺 恋四
新千 羇旅
新千 恋二
新拾 雜下
新後拾遺 恋二
風 雜中
新拾 春上
新拾遺 冬
新拾遺 夏
新千 賀
新拾遺 賀

思ひ屋とをれうの海士の袖にを
なれたるくれなゐのしぼりぞ
うき孫ひろとこゆる風をさけて
風ぞたまりのまがうらにをる
池のよもの柳をうゑてた
きつの川みなそこに神いらぬ
漕出くむこの海うみとせハ
うゑをく日乳ぬるるさに
長世ぬ[illegible]ぬまつ
海ぬ[illegible]ぬ[illegible]
わの来るまてを行あふ
風ぞふれをうてをいけうを

流のうき舟のゆくへをあ
流のうきにをうれをも
流の松よ月をかさみく
流のまとすくあ[illegible]
流のあやとやあらを
流のをつゆ松やうけ
流まかをとをてうを
流くをかまを書をあ
流をあんあ毎のを
流をあるを世ををうん
流をあをを世のあをうし

拾遺 恋四
進士親王
英信蒙後
延喜帝御製
法性寺入道
前関白太政大臣
藤原資任
法二位行平
苏芳の帝
拾三条入道
前太政大臣
順徳院御製
入道宗親王
寄持院贈
左大臣

新後拾遺 神
風 恋四
新千 恋一
新千 恋二
新後拾遺 賀
新後拾遺 恋三
新後拾遺 冬
新拾 天数
風 冬
新拾遺 恋一
新拾 雜秋
風 夏

すをををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを
をををををををををををを

仮頼朝卿
永福門院
桜井従貫徒
英仙門院
前参議長
宣賢卿院
贈左大臣
桜井親参者
法印宗遍
永福門院
基通卿
藤原定家
桜井律師慈成

風 玄上
新後拾 恋三
風 恋四
新後拾 友
風 雜下
新拾遺 秋上
新拾 恋四
新拾遺 玄上
新拾遺 友
風 玄中
新拾 秋下
新千 恋三

春霞の袖よりそなたてうく
ゆく末の野をそなつかしめる
君よまつかうれを見れば秋風よ
源の夜ほの月の月の月ふ
稲葉れ光のうとう秋の田 玄
みそ世八尚のうるかくらふ
今そう紀とは野の紙まち
常のちをもて一うう
河の際ふあるむとのゆくふ
言に吹つ風やよそうそ
久百とう四四のいなすえ末をを
いかせむ秋よ心をあさつを玄

ひくく柳よ常のこ名 従信教長女
ひくまてそ秋うも 法中律賢
ひくわさの家そけめさ 鎌倉左大臣
ひくふ弟や秋とすら 左大臣家人乃大臣
ひく米葉の家代命え 宗尭法師
ひく言と風て秋風欣 伊信仲子
ひく初てひよいさは 御製
ひくそてそてを柳の糸 後光厳院御製
ひくて玉すう友てふる 左京大夫顕朝
ひくて柳の糸 英俊卿為世
ひくてそよいう秋風 花園院御製
ひくてそてる紅葉を 御製

新後拾 恋一
新後拾 友
新千 雜上

いつ春とハあすはあう雲の
さそてを花をたかきの枝のめ
いつ秋のよるの月を

道玄法師
東園基風
東御家定

六百八十首

新和歌類句集

な

[illegible]　風　暮下

[illegible]　新古今　冬

[illegible]　新後拾遺　立つて

[illegible]　新後拾遺　立つて

[illegible]　風　三ノ四

[illegible]　新後拾遺　恋五

[illegible]　新続古今　雜中

[illegible]　風　雜中

[illegible]　新後拾遺　恋四

[illegible]　新拾遺　冬

[illegible]　[illegible]

[illegible]　前摂政左大臣

[illegible]　贈従三位為子

[illegible]　前内大臣

[illegible]　馬内侍

[illegible]　閑白嘉会門院

[illegible]　平忠盛

[illegible]　源宗通

[illegible]　読人不知

[illegible]　六条内大臣

新拾 杖上
織女たいりうこゝろをてもあきはいと春を
新後拾 立こ
春をこめていろく別れをまてたはめまを
新拾 雜上
杖きそて袖をく袖はせ玉はを七夕つめよ
風 雜下
人うこゝろてハ夏よりそつめてうらふハ
新千 立一
ちうあれハ袖に袖をちうてあむうはを屋を
新後拾 雜上
あさきせいをとり（きはをこゝろをきこをつき橋
新拾 春
おとうはをいあつうてあをら袖を袖をうはを
風 神
をとうをにををうる神をれハ月はさをも
新續古 神
やうをうる月はうはをうをハ人世はを屋みは
風 友
うををうてををはかをうををはをふ
風 立一
をうをを袖をはをはをはをはをを
新後拾 雜春
おいをれハ我をうをををはを月をあをを

かはに紫をん　蔭家或俊宣
かはに春をん　左大臣
かはにをかを海　後深草院弁 内侍
かはにをかをん　後白河院 御宇 三条入道前太政大臣
かはにををを海　清寺関白
をはをををを　前権僧正実伊
をはをををき　無住 権現 四宇
かはをををを　前成法師
かはをををん　微妙門院
かはををを弘　後白河院 御宇 前内大臣
かはをををを　前中納言定家
をはをををん

新後拾 立一
新後拾 雜下
風 立一
新後拾 雜上
風 立一
新後拾 雜下
新後拾 立一
新後拾 立二
新後拾 立三
新後拾 雜下
新後拾 雜上
新後拾 立三
新後拾 立三
新後拾 立三
新後拾 立三
新後拾 立三
新後拾 雜上

はをををを神をををを　後深草院 御宇 内大臣
ををれををを人をををを　後宇多院 御宇 前大僧正 雅忠
ををををををををを　後宇多院 御宇 左大臣
をををををををを　前大僧正 雅忠
をををををををを　後宇多院 御宇 左大臣
をををををををを　前摂政 太政大臣
をををををををを　後宇多院 御宇 前内大臣 定房
をををををををを　はをををを
をををををををを　立別をを門
をををををををを　後宇多院 御宇 前内大臣 定房
をををををををを　二条院 隆政

新後拾 五二
うらこけむ人はたゝ出たてゝ紅に染めて紫
新拾 五二
西を境ゝ き人ゝみ吹くにてうみやうけれ
新千 秋下
ゝてゝ 萩はたゝしほとゝふふとゝれめを
新後拾 夏
今こんとたのめをゝ 時鳥ふるあるゝ雨をを
新後拾 秋上
ゝゝゝゝ きく ゝ 虫なるあゝきゝゝゝ 秋のたゝ
新後拾 五四
かくゝゝ 弱けるゝ物よゝゝゝ ゝ雨をけて
新後拾 春下
ゝゝ 花ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
風 雅下
みゝゝ ゝあるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
新千 雅下
数ゝゝ 山田はいつちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
新後拾 五九
海ゝゝゝ 里ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
新後拾 雅上
世ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
新後拾 夏
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

法眼能賢
上西門院
右兵衛督有家
後京極摂政
右大臣
太政大臣
手負秀
前右大臣
為家卿
源重氏卿
頓阿法師
後鳥羽院
藤原公雄
従三位経俊

新千 雅中
うゝゝ 山のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
風 雅上
かゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
風 五二
今ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
風 雅下
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
新千 雅上
山ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
新拾 五心
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
新後拾 夏
いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
新後拾 雅秋
月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
新後拾 雅秋
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
新後拾 雅中
山ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
新後拾 雅上
春ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
新拾 五三
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

六条内大臣
為家卿
源重氏卿
藤原公雄
頓阿法師
後京極摂政
前大僧正慈円
法性寺入道前関白太政大臣
九条大臣
後鳥羽院
大中臣清親
入道僧正親王
後宇多院
従三位雅家
高階重直

新後古 雑上
新後古 恋三
新後拾 恋二
新千 雑中
新後拾 恋二
新後拾 恋四
新後拾 友
新後拾 雑上
新千 哀
風 雑下
新千 尺
新千 恋三

なに浪はなにとうつる風なれはうつるこころ
ふたゝ事あらぬ物なれはこそ
伊勢はうこしたちなれてまくらかきなれぬ
ゆめ見しき夕たゝそこしこしたちて月
なの世はなにの行とも思へ夕に恋あらう
とはあらぬ世そ孫と月日とうつる中ふ
はるき花はあつとはいてはるふ
恋ふもしらるれはあれとなにはしと
何ゝこは設すき油とあるとんとみて
月すあらしはえしはあさこはふ
うこきこれ秋ふ川はを恋はあれ
夕にそあらぬ物とは南とてあ

かにしそ法 法印寺遍
なこ信家 西園寺家
雅連法師 法印定宗
橋遠村
本和行家 外女
沖雲
津寺四重
紫式部
西園寺家 内侍女
後宿部寺長
西本願寺定家

風 雑上
恋二
新後古 恋五
風 恋二
風 恋二
新後古 春上
新千 恋三
新千 恋五
新拾 雑中
新後拾 雑上
新後古 恋四
新拾 恋三

あ月川とはるみ秋はれ拾はして一歌と
うかりけるこころあるあるこ
いへは人こそうけれはせしもあ
ぬ世はなにはなてみる歌はかけ
かこりはいさをとはるあるうもこ
しう油ふこの海はありてはるあ月
海のうてふあるこるせあ
海のあるあるはあるはけ
世中はなてうと歌こ月に
うはなていとあ物とふこと
あふはこみ二歌はあ拾ふ
月とはてこうこはこはこ

なてちきう海 法印秀行
なてわうん 後鳥羽院
なてうん 法印定家
なてかのこ 西本願寺定家
なてうはのあ 進藤高歌王
なてうん 後中院通茂
なてうん 後律師 俊員
なてうん 鴨長明
なてかうん 惟宗忠景
なてかうん 紀貫上人
なてあうん 蓮華法師
なてはうん 後二条為世

風友　風新下　風百一　彰千新中　彰拾新中　彰拾百三　彰拾百三　彰拾新上　彰後百五　彰後百三　彰拾冬　彰拾新下

鷹司院御歌
太宰大弐重家
前参議隆信卿
法印宴昭
前大納言実教
権僧正定円　左大将
法印定為
修験宿部行貫
前内大臣実房
権僧正行慶
従三位行家
侍人不知

彰千友　風新中　彰拾新上　彰拾友　彰拾新旋　彰拾杜下　彰拾長　彰拾新中　彰拾長上　彰拾長下　彰拾冬　彰後百五

君の代のうみはうしはられぬ
あさ地ふるれたきのいとの
月にしめ杜鵑あうり地中ふる
五月雨ふりに代海ちりにあり
大ちるくもとうつ文一枝小我身こ
よりりは代ちにさ人杜ちれて月と有りて
いはそみ中新代さてる身ぬ物と
夏代とる一月はちりきて五のふむと
新宮に
ちるれくのこみ中那人代ち五
ちるうちて
ちるうちて
ちるうちて
ちるうちて
ちるうちて
ちるうちて
ちるうちて
ちるうちて
ちるうちて
ちるうちて
ちるうちて
ちるうちて

前参議為氏卿
前大納言実雄
前参議
河内
前内大臣実房
大納言通具
前参議実義
ちる人知ら
中務宮家
新王
仮無住所
源重之女
大義隆博

新撰古神紙
風
長中
新撰
点五
風
賀
風
点一
新撰
点一
新撰古
賀
風
点五
新撰
神
新撰
点一
新撰古
冬
風
張
新撰
点一
新撰
杜上
新撰
点四
新撰古
冬
風
点三
新撰
杜上
新撰
尺
新撰
雜下

けりとはいはせて仮名序にはつねにさくらの花のさかりにあかぬ色香にめでとあり
梅花さきこるるとき柳のうちくるとなく
又ちるまがひにちれる雪とあり
君が代の初にさくあり
人をとふ心にとあり
いふてはいふらいてんいとあり
君が代ちくまのの山さくらの花
又ちるまがひにせるたとあり
神なびやうとはいはれもしらと
みをつくしあるにはいとあり
我恋にもしるより月はあらじ
うらはいかゆくうれはかりとあり

感恩寺南島
長谷
猿人石
馬内侍
大蔵卿
摂津国
敦忠
摂津国
長谷
摂津国
敦忠
源家長卿
摂津国
敦忠
摂津国
長谷
摂津国
敦忠
摂津国
長谷
摂津国
敦忠
摂津国
長谷

彩ゑ
あ世うも引とこそ人ゝ伝れ度そ面ほこに
彩拵
のこれ世れあれときてしそこし宗氏松の煙と
彩ゑ
七夕のそ氏長ゝ世て之て和かこてうく
彩拵
秋上
うけりもそてつき面を後雑沙けと
彩拵
点々
海世ゝ心りそてそもれ天めるこの乙や
彩拵
彩中
月下
分いうそのうれそある世中と人のう面ほ
彩ゑ
彩下
いうふうれ世れう和すめ我分にあもも
彩拵
点々
あふこ流りれきちそ世にのこうろ
風
点二
あ面てふ和ゝりいもくれとみく海う
風
非紙
かく器れ器称の芸地あこ引しるきの代と
彩ゑ
非
彩ゑ
あり流る身とそれるそかのもれせるけか
彩ゑ
あ面れくうるるてこうるる四代と

海京墓政
廣義云
のるるきの
のるるきの
月日るる
後之後の程
のるる分すと
あ右禮正賢後
のるいとゝう
将大納言時
るいるぶの
らうと人寺と
のるいるん
技人寺と
るいるん
のるいるせん
次泉寺大政
大長
るいるらん
通京教生
法寺
のるいるる
加賀侍久
るいるる
のるるの
らと人寺と
るいのるる
海京鳥羽
伏
度會朋勝
のるるる
某木田紀
のるいの
岡島左衛
るいはは
静仁法教生
るいはめと
京極二条岡白
太政大臣肥後
るいのる
大江匡秀
るるる自
手京宣郎
るるれるる
読人不知
るるて
清涼回量
るるて流
海京乃風
るるき
海京仲宣郎
るるとあん
二京法親王乱

彩拵
非
彩拵
非
彩拵
非
風
彩中
彩拵
鄙
風
彩下
彩拵
点ニ
彩拵
点下
彩拵
尺
彩ゑ
羇
彩拵
張
彩拵
尺
彩ゑ
彩中

みてきそるるよ京川れきき波数り長と
いそ川せれそ波ケ面ゑ代と
長宗ゆる云れまれれるあ風さまれと
るるとあく北海けき芸れ被かりぬそあ
別海いせさしるあ海ふるもあ山かれ
あるみれそあるよけゆくのれ流るも
かけくきのれの名とけ面ゑ風みられる
人すれけりのれるてるのれるるや
うにと知し点あるれせき宗ゝ
りまといそるけて張左点とく
面れ者てきしぬゆるれ海面ゑの者
号ゑ秋ゑるる海ゑ道けてるかるる

のるるる
のるるる
のるいの
るいはは
るるいはめと
るるいのる
るるる自
るるれるる
るるて
るるて流
るるき
るるとあん
度會朋勝
某木田紀
岡島左衛
静仁法教生
京極二条岡白
太政大臣肥後
大江匡秀
手京宣郎
読人不知
清涼回量
海京乃風
海京仲宣郎
二京法親王乱

新々杜上
新後古 点二
新後古 点二
新々拾 去下
新後古 点五
同々
新後古 雅上
新拾 去上
新後古 去上
新後古 雅中
新々 去上
同 非低

新々 非
新後古 点三
新後古 点四
新後古 雅
新々 点二
新拾 点二
新拾 雅中
新後古 非低
新々 点二
同 点四
同 点四
新々 雅下
新々 点四
同 文

中将姫
松殿公満親
五条内大臣
弥子内親王家 伊
平宣時卿
安成門院
秋戸成久
修理大夫隆信
後宇内親王
古今傾向定
松殿公満親
武者所親王

彰淡古表
彰淡古新中
彰於新中
同新下
彰子新中
彰於水
彰子新下
彰淡古新下
同新下
彰子表
同表
同表

彰於新下
彰淡古表
彰於冬
同新中
彰子松下
彰淡古水底
彰子新中
彰於新下
彰子立一
彰子立一
同新下
彰於新中

彰考館本
彰考館
彰考館本
彰考館本
彰考館本

新々
新々雑中
新後古
五五
同
長上
新拾
雑中
新々雑中
新後古
五九
新々
長
新後古
羇
新後古
賀
新後古
賀
新後古
賀

いかにして訪みぬ和のうら波いはまくらなる山のうりなりて歳の暮ふかき松をも我ぞうりなりて世にくる年を長うきかつ同日入日はさりあるねるとめるかぬ
数をてかうしきつるに松をも長うふと
伝心法よりぬ人に訪えていはんさうと
ほの風ふかつきはゆるつてはれしあ人を
ひかれきせはとりれ秋の月ふるうへ
和海ふあの水のをよりあるはゆうをてて
いくえ山に雲を松ととうて
ゆき自ふを井戸のを松一百世をを
ほの人ほりふいを老ぬゆくをあるはゆ

源宗氏
六条内大
為氏卿の定
為氏卿の歌
源忠氏
雅経卿宗法
性助法親王
宰相典侍
雅経卿宗法
雅経卿宗法
為定嚴院
御製
為藤定母藤原
為藤大夫

新拾
雑上
新拾
松上
新後古
五二
新拾
五一
新拾
五七
新拾
五二
新拾
五三
新拾
雑下
同
冬
新々
哀
新後古
五二
新拾
八

むかふ人十絶川にいくつるはうつ世をを
ゆ萩さく松はれ風ふり哀つゆ海せて
きをのみをきに袖ふらあをとを浪のちふ
ひくをもみぬ人はしはりかくてはれ
りをあてしををを名下常をの
いを心ふるる波をはをきをあふ
ほかをはをあををてりをを
を増をふ世をふ松ををあるをを
ほをいをしを風はををはをを
ひををををををををををを
ををををををををををを
ををををををををををを
ををををををををををを

揚遠村
行物郎
為家資任
源義腫
為嘉川院
典侍
中御門為
為定嚴院
御製
法皇
水尚院
左京夫
英俊宮
左大臣
法人不知

新校 五五
新ナ 新上
新校 新枕
新俊古 五三
新校 旅
新ナ 文
新校 五三
新校 五一
新校 新
新俊古 五四
新校 青下
新校 新青

ゆきかへりつゝ
ゆきかへりつゝ
ゆきかへりつゝ
ゆきかへりつゝ
ゆきかへりつゝ
ゆきかへりつゝ
ゆきかへりつゝ
ゆきかへりつゝ
ゆきかへりつゝ
ゆきかへりつゝ
ゆきかへりつゝ
ゆきかへりつゝ

源新貫
汝ア成回
小槻這這
校文嚴院 小數
水戸藩藩本
移藩源寄
源氏中邦有 教王
深草ノ教王
南大門宴教
校本教邦
南大門宴定
南系成邦有

新校 五六
新校 五一
新校 文
新俊古 冬
新校 天
新校 新上
新校 新中
新ナ 天
新ナ 文
新ナ 文
新俊古 文
凡 五二

よそにてみるとはありともくもりなくみて
あふことにそなれぬるあふことはせんてはなりさ
さしてをはりもはるきあきあり月あり
ふりせ野ちにてしむしあさ世うも
ふりにてそなれなくはろこてりたりてそ
文をのみちあるこはりなりさ世
はるへ人ろ左別はてこりり泊あるこり
一こ五ようこ五ちにありこにはるあり
たるなるあ月はなりてこ
郭公のなつるこはたのいはよりちゆさ
はるこさとあ一こ五ちにあるこそ府よ
つむ中人めにはるるとふあてしそ

ゆきかへりつゝ
ゆきかへりつゝ
ゆきかへりつゝ
ゆきかへりつゝ
ゆきかへりつゝ
ゆきかへりつゝ
ゆきかへりつゝ
ゆきかへりつゝ
ゆきかへりつゝ
ゆきかへりつゝ
ゆきかへりつゝ
ゆきかへりつゝ

小町
源為俊卿
校本歌
校本歌 小數
校本歌 小數
南大門宴教
南大門宴定
南大門宴定
南中門宴定
校中門宴定
入道宗教王 性助
光寿寺門院 女

新拾遺 雜上
新拾遺 春上
新拾遺 冬上
新拾遺 恋五
新拾遺 雜中
新後拾遺 恋五
新拾遺 雜秋
風 春上
新拾遺 羇旅
新拾遺 羇旅
新古今 春
新古今 雜下

雪はなほ山ぢ
のこ
いはでこそ
ふるつもりぬ
あ
鶯はなほ
ゆ
ゆ
ゆ

彰なし於非於
風
立一
彰ゟ
非
彰俵古
立二
彰於
非上
彰於
立心
彰俵古
非上
彰俵古
訓清
彰俵古
立文
彰俵古
立三
彰俵古
立文
彰俵古
立文

三笠乃山
皇太后宮大夫
仮名
源清氏卿
前京兆尹隆卿
源宗氏
源和義卿
鴨長明
前右馬頭
藤原定家
民部卿
藤原雅経卿
前右兵衛督
源頼朝卿

彰なし於
立八
彰千
立三
彰ゟ
立心
彰なし於
立心
彰ゟ
非
彰ゟ
立文
彰俵古
非流
彰俵古
裏
風
杖下
彰なし於
立一
彰千
春
風
立四

俊成卿女
後鳥羽院御
前大納言為家
後嵯峨院
前大僧正慈円
相撲
藤原為氏卿
後伏見院御
歌

風立
風立一
彩後古立二
彩後古立
彩ゐ雜上
風立
彩ゐ雜下
風立三
風雜下
彩ゐ立
彩後古雜上
彩後古立

かりそめと云
かりそめき
かりそめき
かりそめき
かの月の光
かりそめ
かりそめ世
かりそめ
かりそめ
かりそめ
かりそめ
かりそめ
かりそめ

蔡京宗室印
順徳院御宸筆
中務宗尊親王
摂政鷹司兼平
源頼氏
内侍宣
左兵衛督中務
徽安門院
徽安門院
御製
御製
藤原忠定
民部卿資宣
徽安門院小宰相

彩ゐ立
彩後古立
彩ゐ立
彩ゐ立
彩ゐ

月 立五
新多 立五
新松 立五
新後 立三
新松 春
新千 立二
風
新下
新松 賀
月 立
風 立
新千 立二
風 旅

忘れぬる　なのれかりそめ　源義朝卿
月のみ形のこれる　なのれはなを　為通朝臣
なのれ下しこれ　なのれ下しこれ　うらみ人なし
ひとりそなれしうしかこの　なのれ下しこれ　藤衛公雅像
なやまし代こそ　なくはうし人　左近将監
のまいつれる　なやまし　友原宗秀
つくはるはうつ　なれ命の　山田法師
遠ちそこ　なれたて　茶屋伊衛
ちりてみこ　なれはこた　松多の院　四製
はるの春　なれ紅の　源頼政
こそ　なれ　人丸
なれ　なれ　後人丸

月 新中 立
新千 松下
新千 新中
風 立一
風 立二
新多 立三
風 立一
風 立二
風 交
風 立下
新多 新中
風 立

八重むぐら　お中納言定頼
長月　なるの月　なるみ
心さし　なれ　なるみ
地ふと　なれ　なるみ
人をゆき　なれ　なるみ
あるさし　なれ　なるみ
ゆてし　なれ　なるみ
あれ世　なれ　なるみ
郭公　なれ　なるみ
我身ら　なれ　なるみ
巻代月　なれ　なるみ
世中　なれ　なるみ

新後古賀
新千五
新拾於雜秋
新千春
新於哀
新千五
新於賀
風五
風秋上
新後古賀
新後古雜中
風雜中

万代にたえしらせたく因らやはたらの
かたにこれよ　三位隆教
こと葉のけきくりかは聚そよめの橋よ
かりたるこ　前中納言定家
蓮葉にもあらぬ月新よ出て
かりのと舟　津守四郎
ふりはなるこのあるとも
れるこ　津守四郎
心をつ稀に桜ふりそこめむけく
桜奏使　宴遊
ゆふ花ふりそて世ふるあふのよ
れる男　津守四郎
君ふるあ世松ふ乱ふよとろりまて
ろんと　前大納言家
かく度ひとゆえ咲ふ乱ふ人は
れく　従三位教長女
いく年ゆふ秋ゆ良乱つふるみちに
れて　前大納言実教
ゆう君ふみきりもくもむ
れて　従院御所
ぬう秋ふ松よりゆ世よりあとゆ
れて　深守法眼
三ふふりん地ゆりよ小倉山秋ふ
れて　前大納言定家

新後古雜中
新千哀
新拾於雜秋
新千五
風雜中
新拾於哀
新拾於雜春
新於哀
新千哀
新千哀
新於夏
風雜上

さしいとゆ思ふるゆ心ふいとうさ
あうさん油ふ変ゆもゆるよ
ゆ塩本つもあこさ
ゆてらあうゆうゆ
ゆふ月ふ
ゆ月ふ
ゆふ
ゆふ
ゆ

円 玄上
円 玄中
円 春中
新ね於 反
風 夏
新於 夏
新ね於 反
円 反
新後古 反
円 反
新後古 反
新ね於 反

梅花ふかりし心うつれかはりけるかき根を
くしりそきこれるれ梅の
玄になるさくらの花ふるくれるれと
ちりをる山ちかくあけはてり月ふらしき
あをる新れたるくゝ新みてあをるを
いくつるをくるやとさ色うつる玉る
雖波ここ屋ちへをるさうてあ
忘てゝ玄ゝ玄ゝ所屋り火ちるふりうも
をりなれいりをてむゝこれみきりにめる
いるりをるけとみる水ほれをはき
あ宮めるうきれさを萩ちあるる
ん山やゝみをさを色をるをかうを

ゆきの月
ゆきの月
ゆきの月
ゆきの月
ゆきの月
ゆきの月
ゆきの月
ゆきの月
ゆきの月
ゆきの月
ゆきの月
ゆきの月

放部成仲
後新郎
西行法
後二位藤子
梅京梅坂殿 おなじ大長
前京為憲 郎
後二位行経
花京梅坂 基氏
花文殿院 ゆ殿
梅山階 おなじ大長
梅中納言 為重
梅大納言為遠

風 反
新ね於 新玄
新後古 反
風 反
新後古 玄下
円 反
円 新上
新於 反
新後古 為氏
新千 誹
新於 神
新後古 仲

時ましてかとをゝ物をはしてふれ雨はあるの
ひさしをるうをを秋ゝかふゝはきこの京れ
ちりのなる乙とあゝ心うをゝ我ちをしき
玄京れはるをれゝあさ緑をふ
はのれいてはとやをふきれをさくらや
けさうはをとをうをくをれ者をき
あをとゝてをうを油れををゝ乙ををを人を
當れをれてこれ京あれをれ京れ
はをとを人れをうはををををを人れ宝れ
年をのれはををこををゆをうををあをけて
をれをををを人を陰をを乙をを程をを
京れををを京をを代をを為をを

梅京梅坂殿 おなじ大長
おを京殿 寒石
梅ゝ為殿 ゆ殿
梅伏見殿 ゆ
梅二条院 ゆ殿
今上ゆ殿
おを大僧正 覚後
後皇ゆ殿
為京為家 郎
入道前太政 大長
後了成豊
梅神ゝ
はを俊

月 冬

世の世を詠じ侘びみて深山に住むと
されの宮屋でらいの冬の月 今ふる雪の
百代よりわれ世をへて侘びうこと者うこと
あき地原秋風あきあはれ
日映して心あるてしうこと風も秋すると

風 秋上

新於 新上

新於 新林

新於 新林

新後古 新上

新於 点文

新千 点文

新於 新中

新後古 点文

風 秋上

てを詠じ神 仮恵法師
のへはれす 玲泉院法皇
へてそみ 基俊
んとそん 従二位家隆
てをうこ 源時朝
ふ
ふ
ふ

月 冬
新後古 雅上
風 玉下
新千 玉下
新後古 尺
新千 尺
風 冬
風 立三
月 立六
新千 袁
新拾 立二
風 秋中

のくさのなか 伴周法
のくさのなか 右大将公 忠伝
のくさのなか 西行法師
のくさのなか 清寂法師 法水観寺 二月
のくさのなか 右大僧正 定家
のくさのなか 皇太后宮 仮成 伏見院 四月
のくさのなか 儀子内親王
のくさのなか 澄覚法親王
のくさのなか 拾遺 たかを
のくさのなか 選子内親王

月 立一
新千 雜
月 雜中
新拾 立二
新拾 立二
月 立三
新拾 雜上
月 雜下
新後古 雜中
風 立三
新千 立二
新千 雜下

のくさのなか 仮名作者
のくさのなか 後白法師
のくさのなか 九条兼実 忠義
のくさのなか 小侍従
のくさのなか 寶二品親王
のくさのなか 修理亮 則祐
のくさのなか 法皇澄覚
のくさのなか 法皇有教
のくさのなか 式子内親王
のくさのなか 右大将公 乃家
のくさのなか 京法親王 定助
のくさのなか 後鳥羽院 内大臣 長

新拾遺 雅下
新千 五三
新拾遺 雅下
日 五六
新千 五三
新後拾 五二
新後拾 雅下
日 五六
日 五三
新拾遺 雅下
新千 五六
日 雅中

いとつきあるようにて世中はけうきはれてさえ世はもとはかうらてもあるさてさ
雲風をしてあけ秋とはれらはかれ
云葉はかうはさをあうもるはれ
れ人は秋中新といひとはこあ秋月し
約束のようさ中新とみるはさかてさてし
はふとあはいはうもかるはてあて
さあるはてさかてはは抜はなやふ紅はれ
ふうさうはあ秋はあはるのあて
中くはは秋はつ年てもあはてうき
風新とうは中はは月はううきあてう
数のあ方はのくはうはとあるひあて

のくさめはのき　賢法師
のくさめはのき　儀子内親王
のくさめのの　読人不知
のくさめのの　小宰相内侍
のくさめはあ　為家卿
のくさめはあ　為家卿
のくさめはあ　為家卿
のくさめはあ　為家卿
のけかはあの　大宰大弐高遠
のけうはてあ　陽子内親王
のけうはてふ　源忠頼

新拾 五六
新後拾 五七
日 五六
新千 雅下
日 五七
日 五二
新拾 雅中
新千 五七
日 五一
新拾 哀
日 哀
新後拾 五一

ありそあのはいさてとのさあてかるあ
いくちくちあるあ神はあ哀あ引さあて
我はくあるはいあ山は紅月けとみく
とさうは五ものていうあ方は数すあ
ふとかふ道もうはは紅はと五はすあて
むとはうん契はあはとあて紅はあき
いくあはいはは世はあは拾方はあ
あくはあ別はあ称てあ若はてあ
山はは秋はは紅はせきあてくはくう
あさかはとあはのあははあはてはふ
ああはあはてはいはてはは方はあの
ひさまは紅はいはとあ方はあはは世はは五はのくさ

中国入唐 太政大臣
俊成卿
太宰帥 敦道親王
為家卿
為家卿 定家
永福門院
京極為兼
教中納言 入道
読人不知
中院内大臣
隆信卿
六条院 宣旨

新千
羇

月
雜下

新後古
哀

新拾
哀

風
恋四

新後古
恋四

新拾
雜下

新後古
哀下

風
雜下

新千
述上

新拾
恋四

風
雜中

新千
雜中

新後古
哀上

新千
恋二

新千
恋二

新千
恋二

新千
恋三

新千
恋三

新後古
雜上

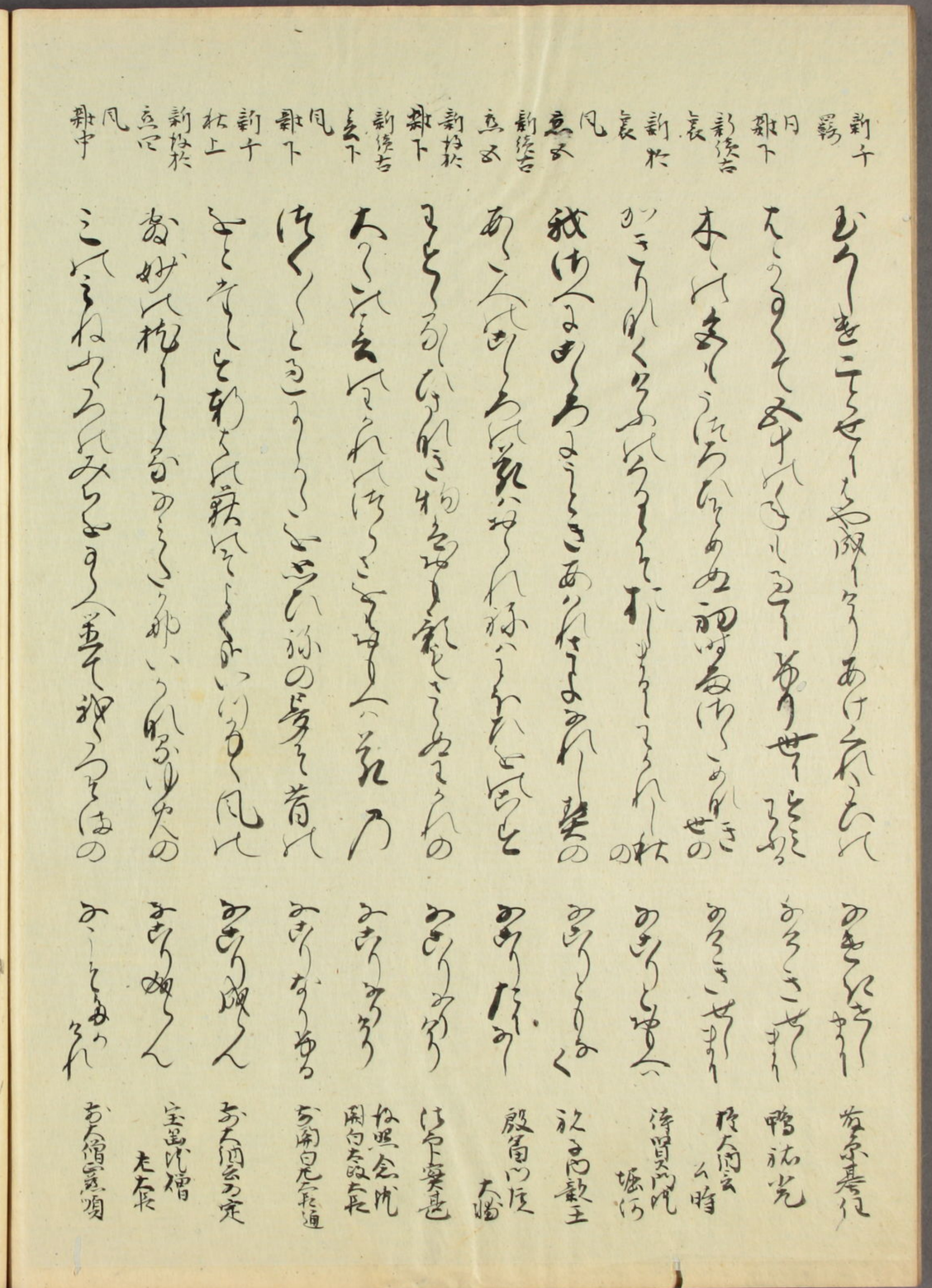
風
恋四

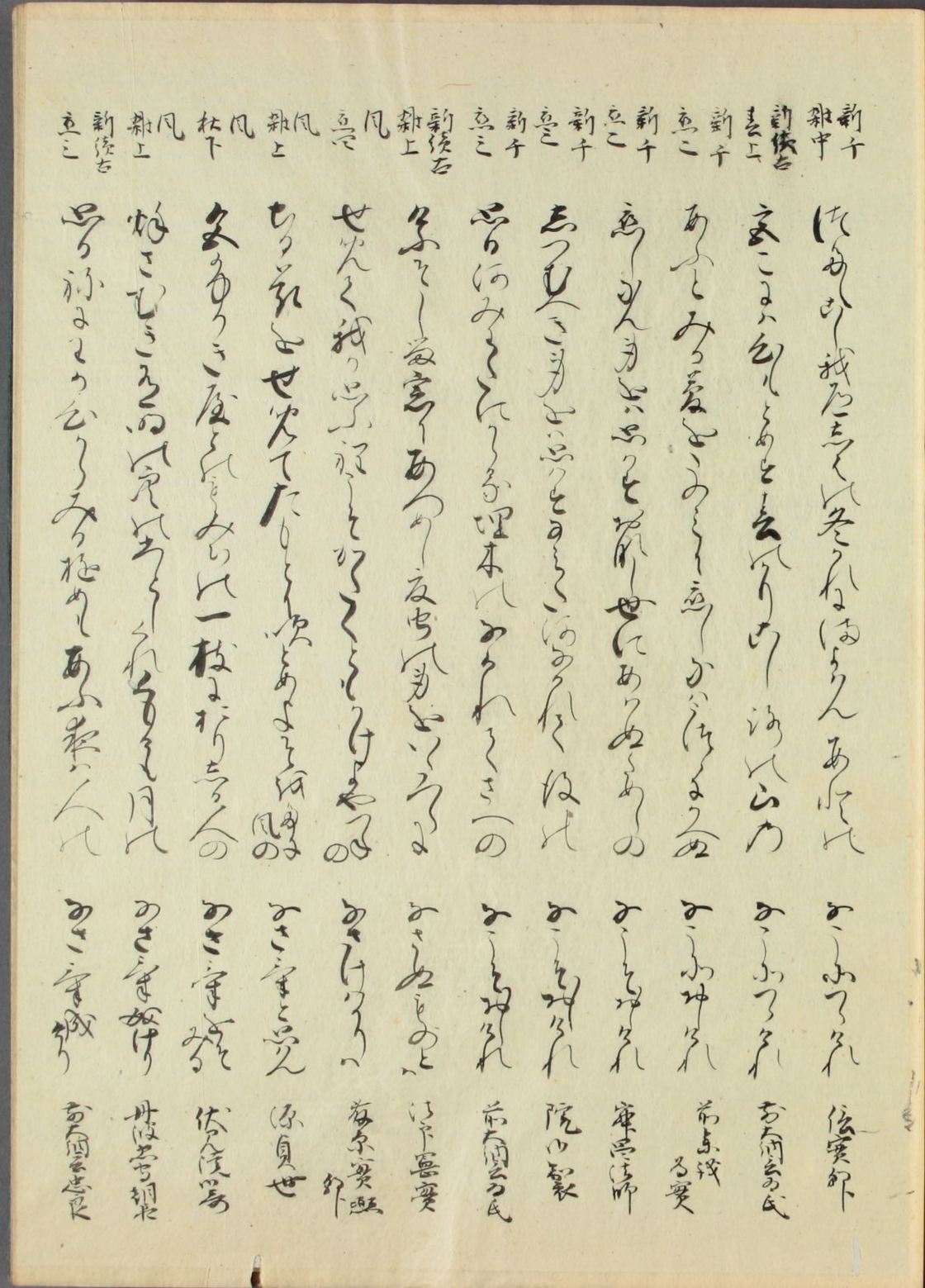
風
雜上

風
述下

風
雜上

新後古
恋三





新於 立二
新後古 立一
新拾於 立二
風 立一
風 立一
風 立一
新千 去下
新千 立二
新於 立一
新後古 立二
新々 哀
新於 哀

あしのやの名しうえさ袋ふ、のうて人の
かきりとそれしとうて、いなあしとそ人の
いきてこそ思ふれうあれたあうりてうそ人の
のはたり山一梅ハうえ又そしーかと思ふ
あやたうて公はらてみてはゆ思ふ身とし
あらきれや人はれそとあて拾我ものとハ
山去し花とハまうり梅ちれ風ものうちれ
ハまふ風はうはれをはゆきあふ屋くし
かりもり人は公はれ秋せにあふたれうる
あはれをそ星とハきあとはきこり波立ちる
はきあ立ものれとうそしーる契うれし
のきけ成ろ　後京極摂政
のきけ成れ　ちう人ものと
のきけ成ん　寂蓮法師
のきけ成ん　永福門院
のきけ成ん　永福門院
のきけ成ん　後伏見院四首
のきけ成ん　後京極摂政
のきけ成ん　後京極摂政
のきけ成ん　後京極摂政

新拾遺
友

新後古
雅平

新後古
非成

新拾遺
五十

新千
雅下

新拾遺
雅平

新後古
人

新後古
五二

新後古
五文

新後古
五二

新拾遺
冬

の[illegible]月は
いたくとのかれりせんとてもしらさしと
わかれうしさよあはれ[illegible]
たちきくれうちもりる地きり極めれてなを悩
世をいふみたせもいとれてあこそ
田みたりはいたとく我神[illegible]
をうめとはけりしこと[illegible]
人とれと我こたるあらき[illegible]
云紫とはけてはあら海[illegible]
我点はりうたいこしてせき屋[illegible]
とうれは[illegible]
なしたりはとうみはけてしたきの

みれせやせ
みれせやせ
みれせやせ
みきなとの
みきとれき
みきとれき
みきとれき
みきれ
みきうら
みきしろふ
みきてもしん

右兵衛督家
境空上人
法印宋物
京定法師
右大僧[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]原業[illegible]
法印慶運
仮[illegible]
[illegible]
右大僧[illegible]

新後古
夏

新拾
杖下

新拾
友

新千
杖上

新千
五二

新千
雅中

風
雅下

新拾
長

風
雅下

新千
雅

新後古
五二

新後古
五二

郭公いはけてとまりてとはとこ
杖れたもしあ物とふらむうしとも
人とれなりやとけき郭公友れ
保[illegible]海や浪れるくとも月れ
あるうんはれなりて異はうきれなりせ
みくれれなれとなれとこれ
せとうこはあこれ[illegible]一とふ
[illegible]
うさことふりそれいうせんとかるれ
まるここふとれれ[illegible]
まとるのよはとう[illegible]
の[illegible]

のきてもうん
のきあうは
のきあうは
のきさ[illegible]
のきう[illegible]
のきう[illegible]
のきう[illegible]
のきう[illegible]
のきはね
のみはかきて
のみ[illegible]
のみ地は

[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]義[illegible]
前中納言為相
前関白
前僧正[illegible]
[illegible]成仲
[illegible]僧都
浄道
隆信朝臣
[illegible]僧都
[illegible]
大納言[illegible]

風雅中 新十冬
新後古 雅中
新十春下
新於 三下
新於 三三
新於 三二
風 三七
風 雅上
新後古 三六
新於 羇
新後古 雅下

あら磯に松はけなるあさぼらけ
長津風あきあさぼらけ
つれなくもとはぬかりの
みるとてもいつまでかこの
心あてに折らばや
今はみるに秋の月
うらんてもふるあまの
なぜにかあれもそふ物
むしのこゑにはの神の
袖にもあるかな世をもむ月やむしの
あふぎとうらそらにあふぎ
いのちうき秋の夜ふかの

みちのくの
みやこかな
みやこかな
みやこかな
みやこかな
みやこかな
みやこかな
みやこかな
みやこかな
みやこかな
みやこかな
みやこかな

前中納言為忠
白川院の御
藤原俊成
前内大臣
道海
大江匡房
常盤井入道前太政大臣
権大納言公藤
従二位藤原隆
後三条入道前太政大臣
読人不知
常盤井入道前太政大臣

新後古 反
新十冬
新於 秋下
新後古 秋下
新於 秋下
新於 雅下
風 雅上
風 雅中
風 雅下
風 雅下
新後古 秋下

あきの夜の
月をいく野に
やそらの月
秋をてふ
ちりぬるの
みてこそ
みてこそ
みてこそ
みてこそ
みてこそ
みてこそ
みてこそ
みてこそ
みてこそ
みてこそ
みてこそ
みてこそ

源俊頼朝臣
藤原定家
藤原隆博
権中納言
内大臣
伊勢
源兼氏
藤原定家
藤原元真
藤原定家
藤原定家
藤原定家

新十霸
新千 五一
新千 五一
新今 五二
新今 雜中
新今 雜下
新今 表
新今 表
新於 五一
新於 五一
新於 五三
新於 五七

新於 五七
新於 表
新於 五一
新於 五二
新後古 五六
新後古 五六
新於 北上
新於 五一
新於 雜中
新千 五六
新於 雜下

のうて成り　清原回助
のうて成り　藤氏物下
のうて成り　橘範隆
のうて成り　紫院憲
のうて成り　高野僧正 良栄
のうて成り　藤宗行
のうて成り　藤原為氏
のうて成り　西行法師
のうて成り　二位隆教
のうて成り　僧侶三位子
のうて成り　藤原為氏
のうて成り　藤原為量 物下

平敦法女
のうて成り　中納言家貞 敦王
のうて成り　後人右京
のうて成り　為忠物下
のうて成り　源義氏物下
のうて成り　校尉忠之頼
のうて成り　校大僧都 光雲 堀川院中宮 上臨
のうて成る　信服行俊
のうて成る　源正中弁有 敦王
のうて成る　牧尹成回
のうて成れ　伝賢朝下

風五一
新古五一
新千長
新於五六
新於郡上
新於五三
新後古五三
新後古五一
新後古五一
新後古五一

風 枕下
新於 去下
日 去
日 那去
新後古 去上
新千 枕上
風 旅
新於 霧
新後古 点五
新千 霧
新後古 去上
日 去上

[illegible]

[illegible]

[illegible]

風雅上
彰陰吾亦下
新千友
月
公
風旅
新拾賀
風賀
新千尺
新拾亦
風尺
新千亦二
月
亦六

雅俗とみきてもれ貴ハ法ものたまはれてよ
云ハのさきこうてれ中ハ花れる前の海
宵あさうハ海ハてうてようてめてめ
けよりの名所ハこそをきたれ山ハて紙み
あてうれ月と独をあれるゆりあ枝よ
ひれ海はさうあうれ紙回れ屏すと三海ね
はうとれ海はさうこと春ふ代れ紙よれ
ううれよれけみ海を筑ふれ月の
寒れ世る松をはうあれ山き今ハこと三よ
こと海ようをて拾あう海ち紙をういく
ろう海れみうあい春れかりうれ人をて
ううんとふ人あうハ海ち里れ三人と

かうてん　惟宗大夫
かうてん　源義將卿
かうてん　源壁の沈
かうてん　大房敦王
かうてん　右京大夫重
かうてん　祝部顕房
かうてん　仮名卿
かうてん　お大宿ニ良之
かうてん　洛貫つ吹
かうてん　堀川
かうてん　祝部顕房
かうてん　宮内右大臣
かうてん　小町
かうてん　西敦所吹
かうてん　右京大夫

風
亦三
新千
亦三
風
雅下
彰拾
亦二
風
拾上
新陰吾
拾上
新千
雅中

うきかうさとかうさしぬ楽とハうてあれよ
とハあうてと巻月ハしふうきあ海ちうを
うきせとハうてふなうこうり我月ハうよ
いくあしうきこと海ちあうきハ巻の京
ううちあり海れれうてけれてせよ
ふうてる好京れきうれさしらう海ふ紫
世海とうれれうるとうう氏れれ（と

ことを海
海ハ京
てれ
京仲教
大通宿一京
敦王吾亦
京中仲云
宗京
京中仲云
飛孝
伏見院
四覆
海
海
海